



全国のがん診療連携拠点病院における診療実態を把握
院内がん登録2012年集計報告
5大がんの年齢年代別治療方法も初集計

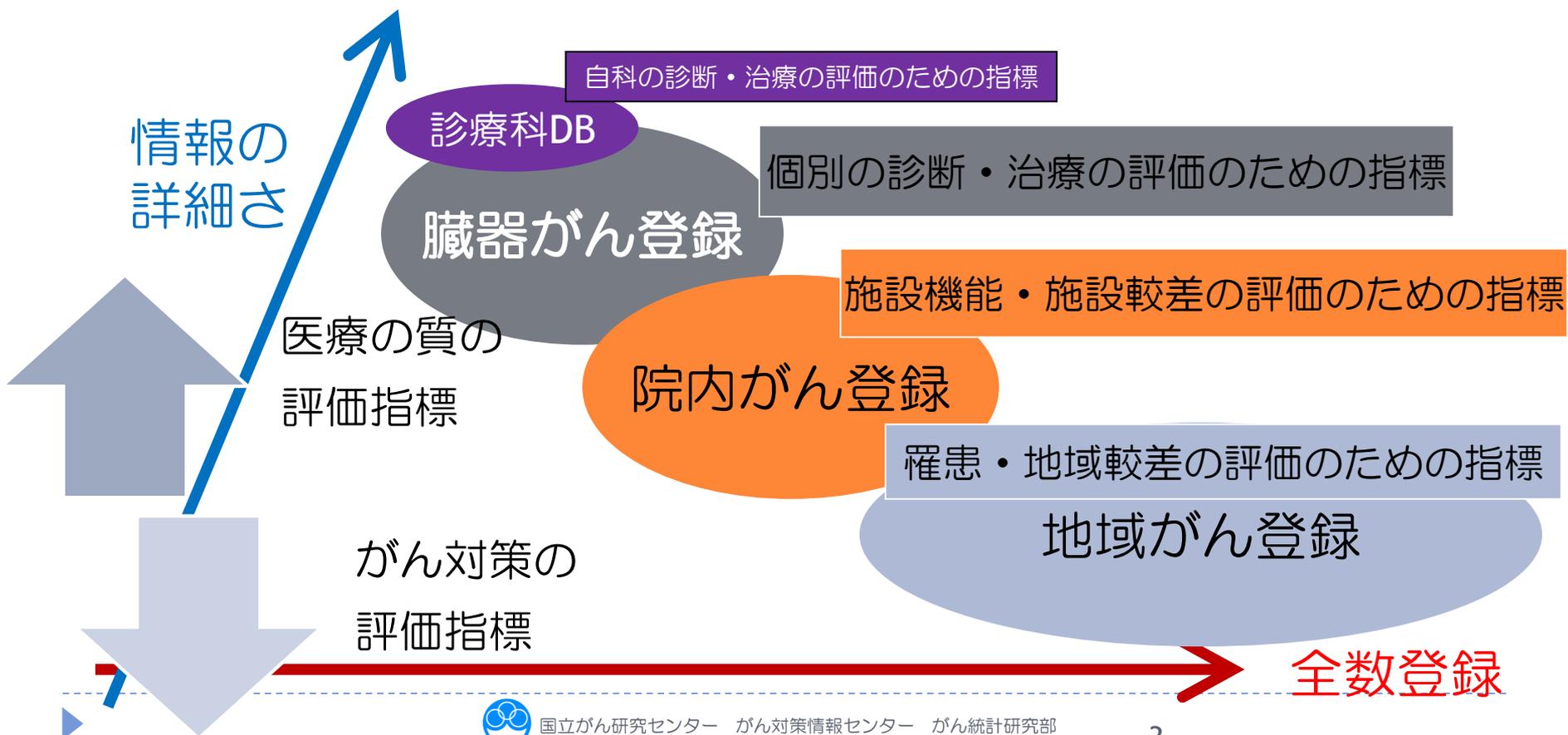


国立がん研究センター がん対策情報センター
がん統計研究部 院内がん登録室

がん登録

	地域がん登録	院内がん登録	臓器がん登録
誰が	行政が	病院が	専門家が
何のために	住民をがんから守るために	病院機能を高めるために	がん医療の質を高めるために
誰の	地域住民に発生した	自施設を受診したがん患者の	特定のがん患者の
	全部位、全がん種の	全部位、全がん種の	ある部位、がん種の
何を	罹患率、生存率	診療数、生存率	生存率等
分析する	の実態、推移を	の実態を	を、治療前情報、治療情報等を用いて詳細に
応用例	年齢調整罹患率 部位別罹患率	部位別の診療数	新しい治療法を受けた患者の生存率
比較の例	他の地域	他の病院	以前の治療方法
最新報告年	2010年（H26.3報告）	2012年（H26.7報告）	

- ▶ 目的（何を評価するための登録か）が異なる
- ▶ 目的によって、必要な情報が微妙に異なる



2013年12月 がん登録等の推進に関する法律成立
 2016年1月 全国がん登録開始予定

第一条（目的） 国民に対するがん、がん医療等及びがんの予防についての情報提供の充実その他のがん対策を科学的知見に基づき実施するため、全国がん登録の実施並びにこれに係る情報の利用及び提供、保護等について定めるとともに、院内がん登録等の推進に関する事項を定め、あわせて、がん登録等により得られた情報の活用について定める

2016年

	地域がん登録	→	全国がん登録	院内がん登録
誰が	各都道府県が		国が都道府県と共に	病院が
誰の	自県住民に発生した		日本住民に発生した	自施設を受診したがん患者の
			全部位、全がん種の	
何を			罹患率、生存率	診療数、生存率
分析する			の実態、推移を	

概要版 がん診療連携拠点病院 院内がん登録 2012年診断症例全国集計報告書の発行・公開について

- ▶ 平成25年7月に発行・公開した2011年診断症例の集計報告に続き、6回目の報告です。初めて、がん診療連携拠点病院全397の施設が集計対象施設になり、約61万例の登録の提供を受けました。
- ▶ 昨年度に続き、都道府県からの推薦に基づき、がん診療連携拠点病院以外で院内がん登録を実施しているがん診療施設に対して全国集計への参加を依頼し、最終的に全国から236施設、約15万例の登録の提供を受けました。

	拠点病院	県推薦	2012年合計	2011年県推薦
病院数（調査時）	397	298	-	-
集計対象施設数	397	236	633	155
全登録数	613,377	152,746	766,123	89,085

拠点病院 院内がん登録全国集計とは

- ▶ 「院内がん登録の実施、データの提供」は、がん診療連携拠点病院の指定要件の一つになっています。
- ▶ 国立がん研究センターは、各拠点病院で診断あるいは治療された患者さんの情報を匿名化した形で、1年ごとに、診断された日や発見の経緯、がんの進行度（病期）などを電子データで収集し、集計報告を行っています。
- ▶ 施設別、都道府県別の集計値を公表することで、各施設、都道府県のがん診療の特性を見たり、施設での登録の問題点を把握したりすることを目的としています。

がん診療連携拠点病院院内がん登録 2012年診断症例全国集計 報告書構成

I 2012年全国集計 調査方法

収集の対象と方法

収集の対象

収集方法

収集項目と定義

集計の対象と方法

集計の対象

集計項目の定義

公表の対象について

2012年全国集計 データ提出施設

2012年全国集計 集計データ還元

II 2012年全国集計 結果概要

集計対象登録患者数

県別の推計罹患数との関係

登録患者数の推移

III 2012年全国集計 結果詳細（診断情報）

1. 登録患者数、性別、上皮内を含む/含まない

2. 診断時都道府県コード

3. 年齢層

4. 症例区分

5. 来院経路

6. 発見経緯

7. 部位別

IV 2012年全国集計 結果詳細（腫瘍情報）

1. 胃

2. 大腸

3. 肝臓

4. 肺

5. 乳房

6. 小児がん（20歳未満）、国際小児がん分類別

7. 5部位のUICC TNM分類治療前ステージ別
治療方法：年齢別、2012年

がん診療連携拠点病院院内がん登録 2012年診断症例全国集計 報告書付表構成

付表1-1 登録数：都道府県、部位別、性別

付表1-2 登録数（浸潤がんのみ）：都道府県、部位別、性別

付表2-1 登録数：都道府県、診断時住所別

付表2-2 登録数（20歳未満）：都道府県、診断時住所別

付表3 登録数：都道府県、5歳年齢階級別、性別

付表4 登録数：都道府県、症例区分別

付表5 登録数：都道府県、来院経路別

付表6 登録数：都道府県、発見経緯別

付表7-1～5（胃、大腸、肝臓、肺、乳房）登録数（自施設初回治療、癌腫）

（自施設初回治療、癌腫）：都道府県、UICC-TNM分類 治療前ステージ別

（自施設初回治療、癌腫、原発巣切除）：都道府県、UICC-TNM分類 術後病理学的ステージ別

（自施設初回治療、癌腫、治療前ステージ別）：都道府県、治療方法別

付表7-6 ICC-3主分類別登録数（20歳未満）：都道府県、性別

付表7-6 ICC-3主分類別登録数（20歳未満）：診断時住所、性別

同じ内容の施設別の付表は、「がん情報サービス」 にあります。

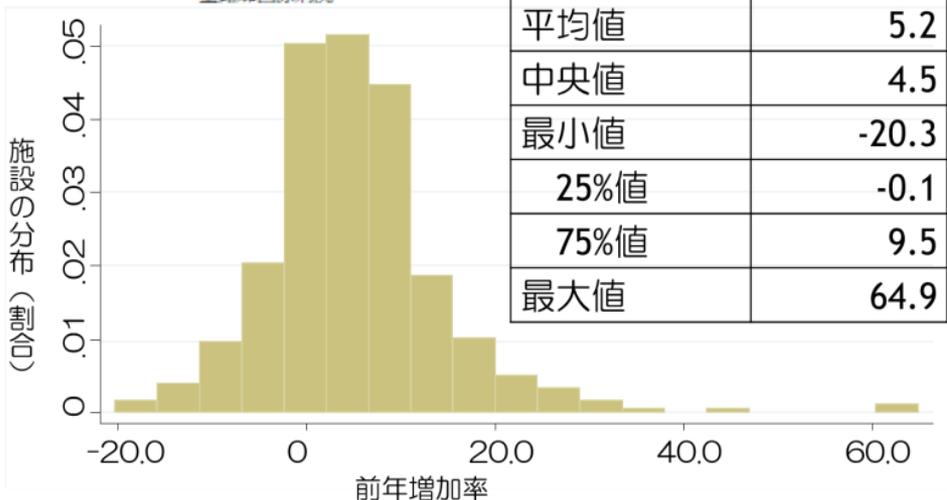
http://ganjoho.jp/professional/statistics/hosp_c_registry.html

表2-1 全登録数の推移

登録年	2007	2008	2009	2010	2011	2012
拠点病院数（調査時）	288	351	377	388	397	397
集計対象施設数	287	359	370	387	395	397
全登録数	327,889	428,195	487,441	548,979	584,120	613,377
1施設当たりの全登録数の中央値	--	1,038	1,150	1,251	1,313	1,363
最小値	--	136	155	168	162	175
最大値	--	8,600	8,866	8,620	8,174	8,617
症例区分8を除く集計登録数 （全登録数に対する割合）	--	--	471,827 (96.8)	530,363 (96.6)	563,422 (96.5)	590,856 (96.3)
症例区分2,3のみ （全登録数に対する割合）	--	--	403,996 (85.6)	451,058 (85.0)	475,924 (84.5)	497,725 (84.2)

都道府県	施設名称	2011年	2012年	対前年増加率
千葉県	独立行政法人国立がん研究センター東病院★★	4,878	5,184	6.3
	千葉県がんセンター★	4,286	4,315	0.7
	総合病院国保旭中央病院	2,371	2,358	-0.5
	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院	2,678	2,699	0.8
	国保直営総合病院君津中央病院	1,345	1,345	0.0
	日本赤十字社 成田赤十字病院	1,219	1,309	7.4
	独立行政法人労働者健康福祉機構千葉労災病院	911	937	2.9
	船橋市立医療センター	1,326	1,413	6.6
	国立大学法人 千葉大学医学部附属病院	2,912	3,407	17.0
	独立行政法人国立病院機構千葉医療センター	869	908	4.5
	東京歯科大学市川総合病院	1,324	1,281	-3.2
	順天堂大学医学部附属浦安病院	1,466	1,567	6.9
	東京慈恵会医科大学附属柏病院	1,313	1,582	20.5
	国保松戸市立病院	1,262	1,210	-4.1
	東京都	独立行政法人国立がん研究センター中央病院★★	6,471	6,486
東京都立駒込病院★		3,941	4,266	8.2
公益財団法人がん研究会 有明病院★		8,174	8,617	5.4
青梅市立総合病院		1,031	1,190	15.4
N T T 東日本関東病院		1,954	1,854	-5.1
日本赤十字社医療センター		2,003	2,249	12.3
日本大学医学部附属板橋病院		2,232	2,384	6.8
武蔵野赤十字病院		1,990	2,199	10.5
国立大学法人 東京大学医学部附属病院		3,407	3,066	-10.0
日本医科大学付属病院		2,468	2,562	3.8
聖路加国際病院		2,190	2,327	6.3
		3,940	3,964	0.6
		2,025	2,102	3.8
		1,220	1,394	14.3
		2,202	2,321	5.4
	3,536	3,819	8.0	
	2,244	2,478	10.4	
	3,734	3,528	-5.5	
	2,475	2,557	3.3	
	3,021	3,372	11.6	
	1,458	1,492	2.3	
	2,765	3,256	17.8	
	3,067	2,845	-7.2	
	1,998	2,208	10.5	
	1,678	2,111	25.8	

15ページ～
集計対象施設の
全登録数、
2011年、2012年、
対前年増加率



施設ごとに、平均
5.2%登録数が伸びて
います。

用語

▶ UICC TNM分類

がんの進行度を判定する基準として国際的に活用されている国際対がん連合（UICC）採用のがんの分類方法。28の部位ごとに各種の検査結果から原発がんの大きさ、広がり、深さをT、原発がんの所属リンパ節転移の状況をN、他の臓器への遠隔転移状況をMとして、区分し、それらを総合して病期（ステージ）を判定しています。

▶ 国際小児がん分類

小児のがんは、成人のがんと違い、原発部位ではなく、組織形態に基づいて分類する方が妥当とされています。成人のがんは、国際疾病分類 腫瘍学（International Classification of Diseases, Oncology : ICD-O）に基づいて分類されるため、これに対応する小児のがんの分類 国際小児がん分類（International Classification of Childhood Cancer:ICCC）が、国際的に利用されています。分類の最新版は、2005年に公表されたICCC第3版（ICCC-3）です。

2012年報告の特筆点1

56ページ～

- ▶ 小児（20歳未満）について、本年から、国際小児がん分類に基づく集計を基本集計として毎年報告することになりました。
- ▶ 2012年の20歳未満の患者の集計登録数は3,329例でした。
- ▶ 20歳未満の登録が1例もない施設は76施設でした。

表4-6-1 国際小児がん分類、第3版 主分類

	略標記	診断群
I	白血病	白血病、骨髄増殖性疾患、骨髄異形成疾患
II	リンパ腫	リンパ腫、細網細胞腫瘍
III	脳腫瘍※	中枢神経・その他の脳・脊髄腫瘍（胚細胞腫瘍を除く）
IV	神経芽腫	神経芽腫・その他の末梢神経細胞腫瘍
V	網膜芽腫	網膜芽腫
VI	腎腫瘍	腎腫瘍
VII	肝腫瘍	肝腫瘍
VIII	骨腫瘍	悪性骨腫瘍
IX	軟部腫瘍	軟部組織・その他の骨外性肉腫
X	胚細胞腫瘍	胚細胞腫瘍、トロホブラスト性腫瘍、性腺新生物
XI	その他の癌	その他の悪性上皮性 新生物、悪性黒色腫
XII	その他	その他・分類不能の悪性新生物

- ▶ 特別集計として、5部位について、病期別、年齢別の初回治療方法の集計を行いました。
- ▶ 「自分と同じ部位で、同じくらいの年齢で、同じ病期の患者がどのような治療を受けているのか」の参考情報になればと考えています。
- ▶ 「自分と同じ部位で、同じくらいの年齢で、同じ病期の患者」でも異なる治療が行われることについて、同じ年齢でも全身状態が異なったり、同じ部位の癌でもタイプが異れば、より適切な治療方法が選択されます。

治療の集計の留意点（報告書 p8-10）

- ▶ 登録対象のがんの初回治療のみ登録
- ▶ 初回治療
 - ▶ 治療開始時点で既に計画されていた治療内容で、後から随時に追加された治療は含まない
 - ▶ 自施設で行った初回治療のみ登録
- ▶ 治療の登録区分と集計区分
 - ▶ 登録は、外科的治療、内視鏡的治療、化学療法、内分泌療法、放射線治療など12区分の「有無」。
 - ▶ 12種類の治療区分の「有無」から、集学的治療を考慮した集計用の12の治療区分と、いずれの登録区分も「無」であった“治療なし”の13種類。
 - ▶ 但し、“治療なし”は吐き気や痛みの治療など、いわゆる症状緩和の治療なしを意味するものではありません。“治療なし”であっても、緩和ケアは適切に実施されています。

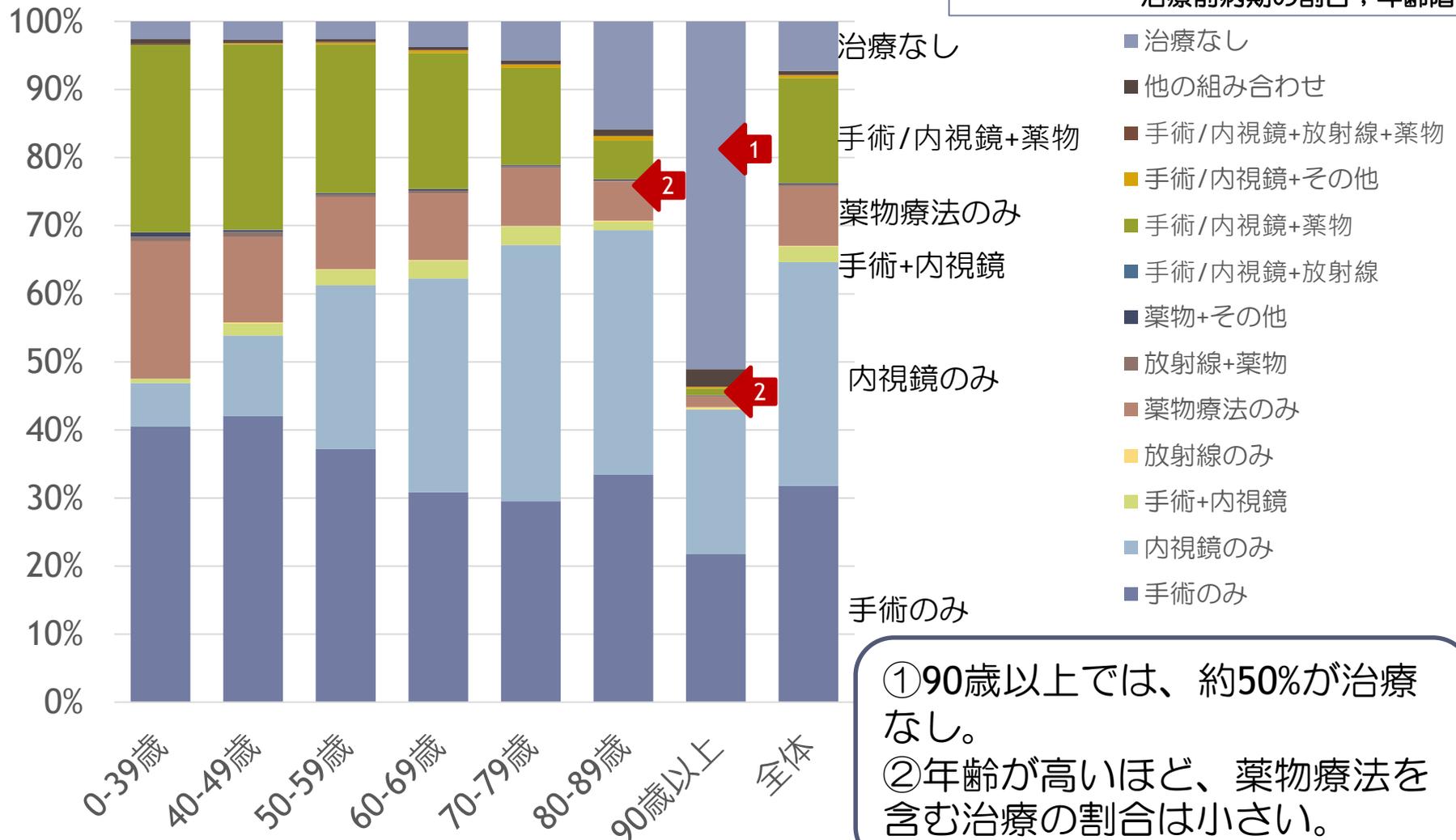
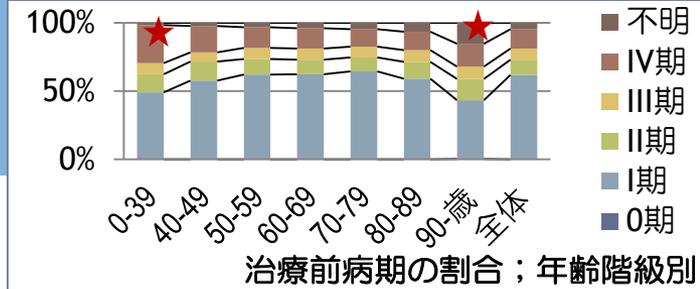
登録区分 集計区分		外科的	体腔鏡的	内視鏡的	放射線	化学	免疫・ BRM	内分泌	TAE	PEIT	温熱	レーザー	その他
		1 手術のみ	▲	▲									
2 内視鏡のみ			●										
3 手術＋内視鏡	▲	▲	●										
4 放射線のみ				●									
5 薬物療法のみ					▲	▲	▲						
6 放射線＋薬物				●	▲	▲	▲						
7 薬物＋その他					▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
8 手術/内視鏡 ＋放射線	▲	▲	▲	●									
9 手術/内視鏡 ＋薬物	▲	▲	▲		▲	▲	▲						
10 手術/内視鏡 ＋その他	▲	▲	▲					▲	▲	▲	▲	▲	▲
11 手術/内視鏡 ＋放射線＋薬物	▲	▲	▲	●	▲	▲	▲						
12 他の組み合わせ	1～11までの組み合わせ以外の組み合わせ												
13 治療なし	いずれの治療方法も「無」で登録												

▲：いずれかの治療が「有」で登録

2012年報告書 抜粋 特別集計

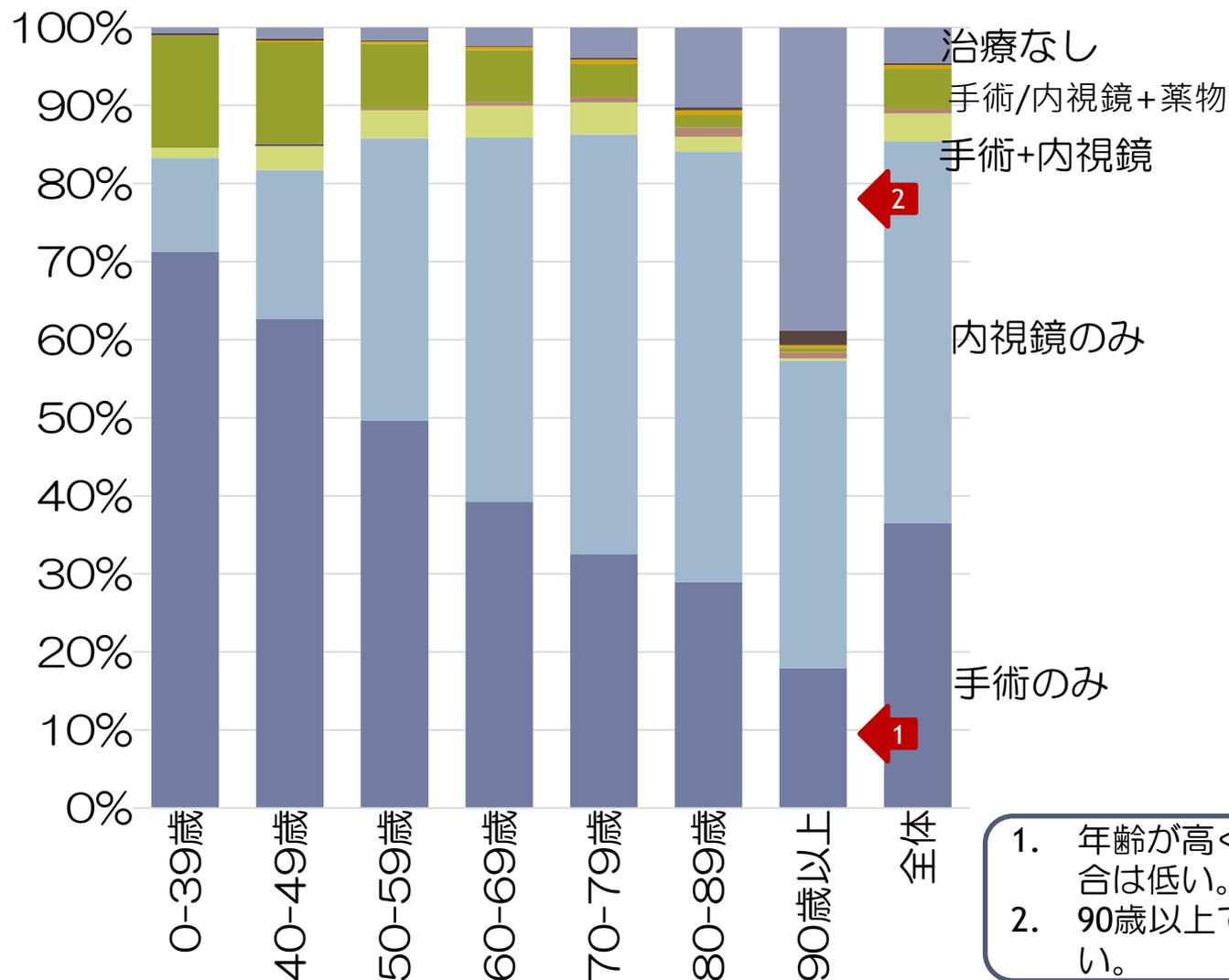
5部位の年齢別にみた治療方法

胃癌 (p58-9)



胃癌 I 期

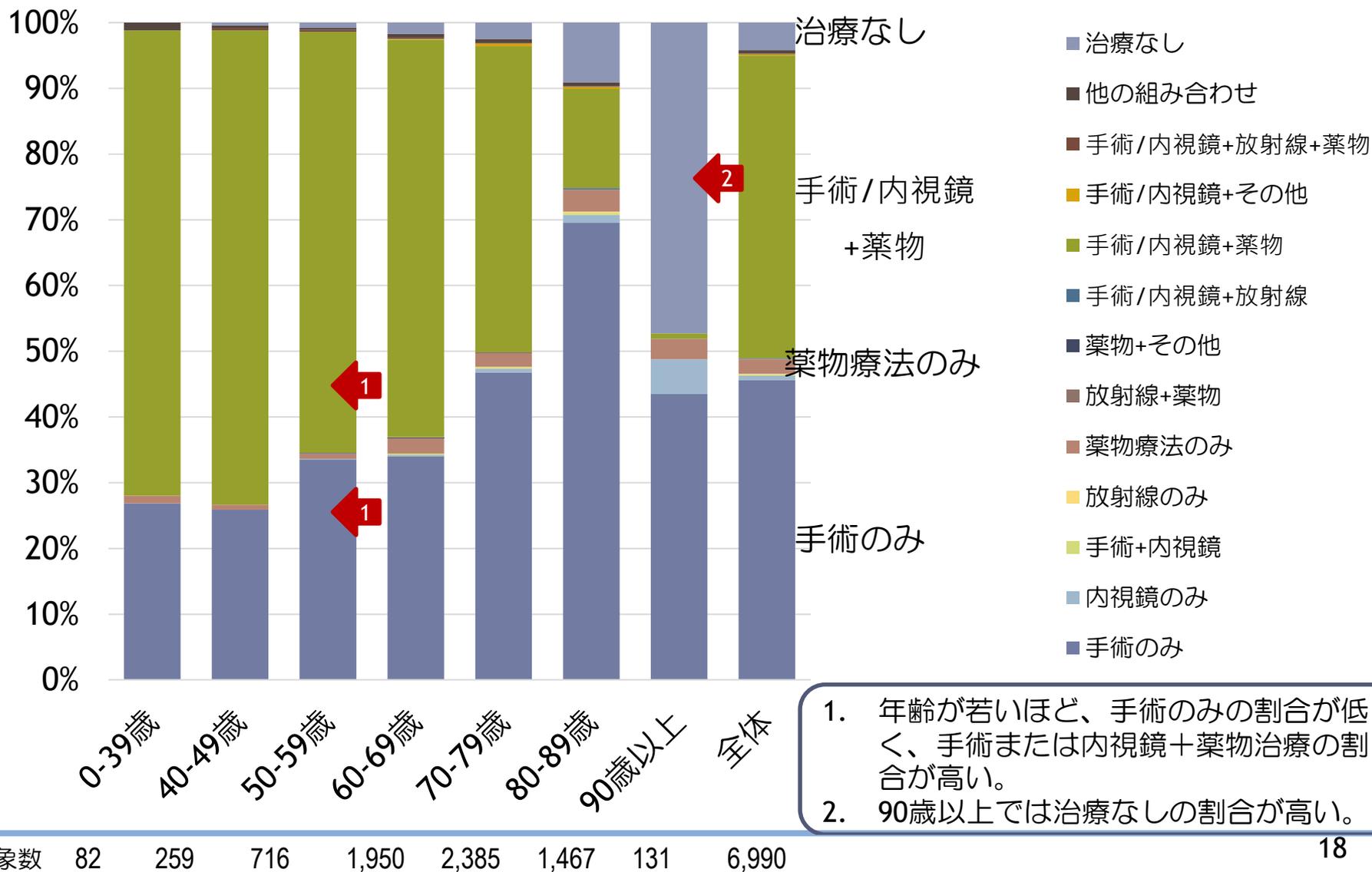
胃癌 UICC TNM分類治療前病期I期



1. 年齢が高くなるほど、手術のみの割合は低い。
2. 90歳以上では、治療なしの割合が高い。

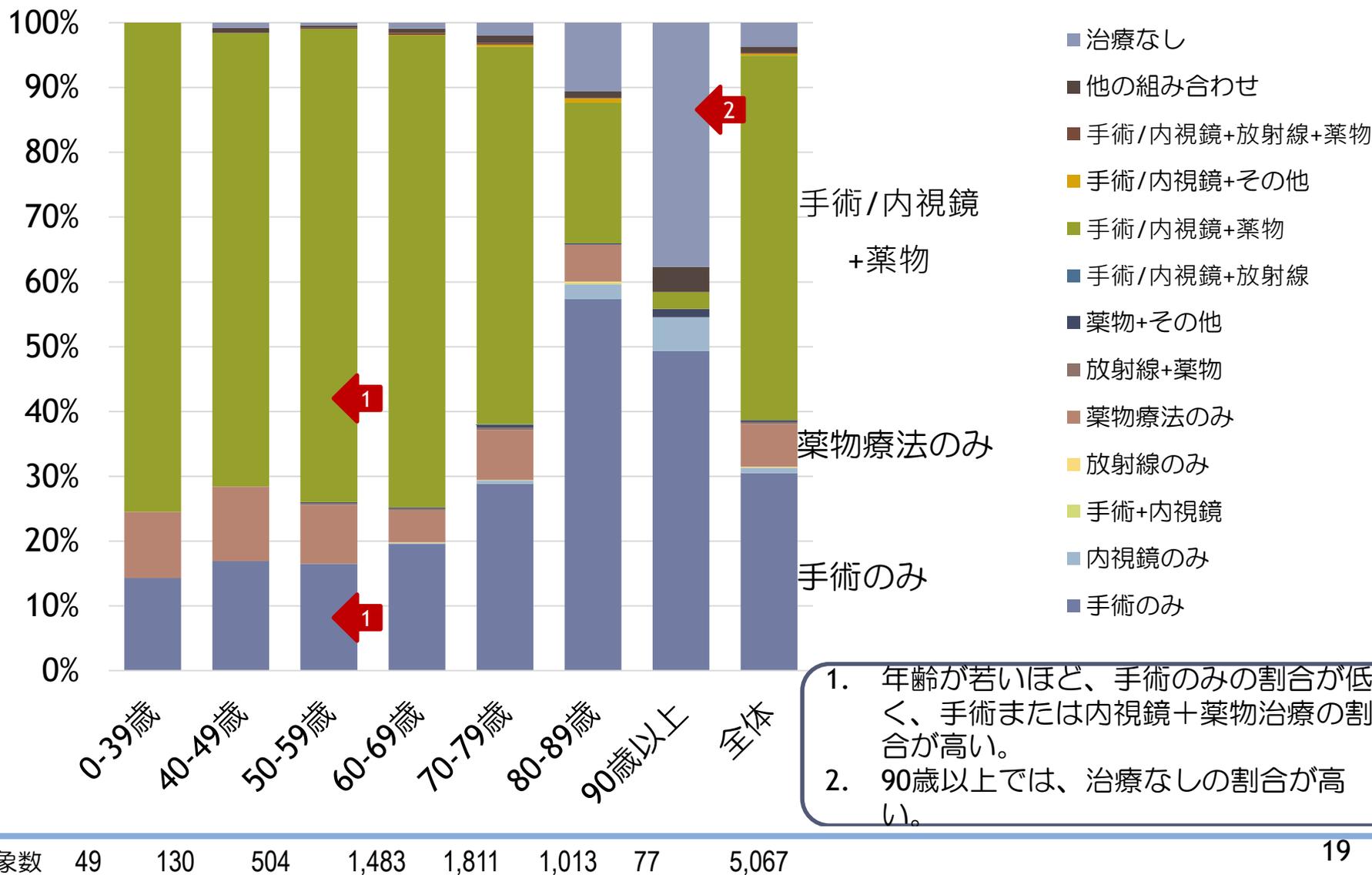
胃癌 II期

胃癌 UICC TNM分類治療前病期II期



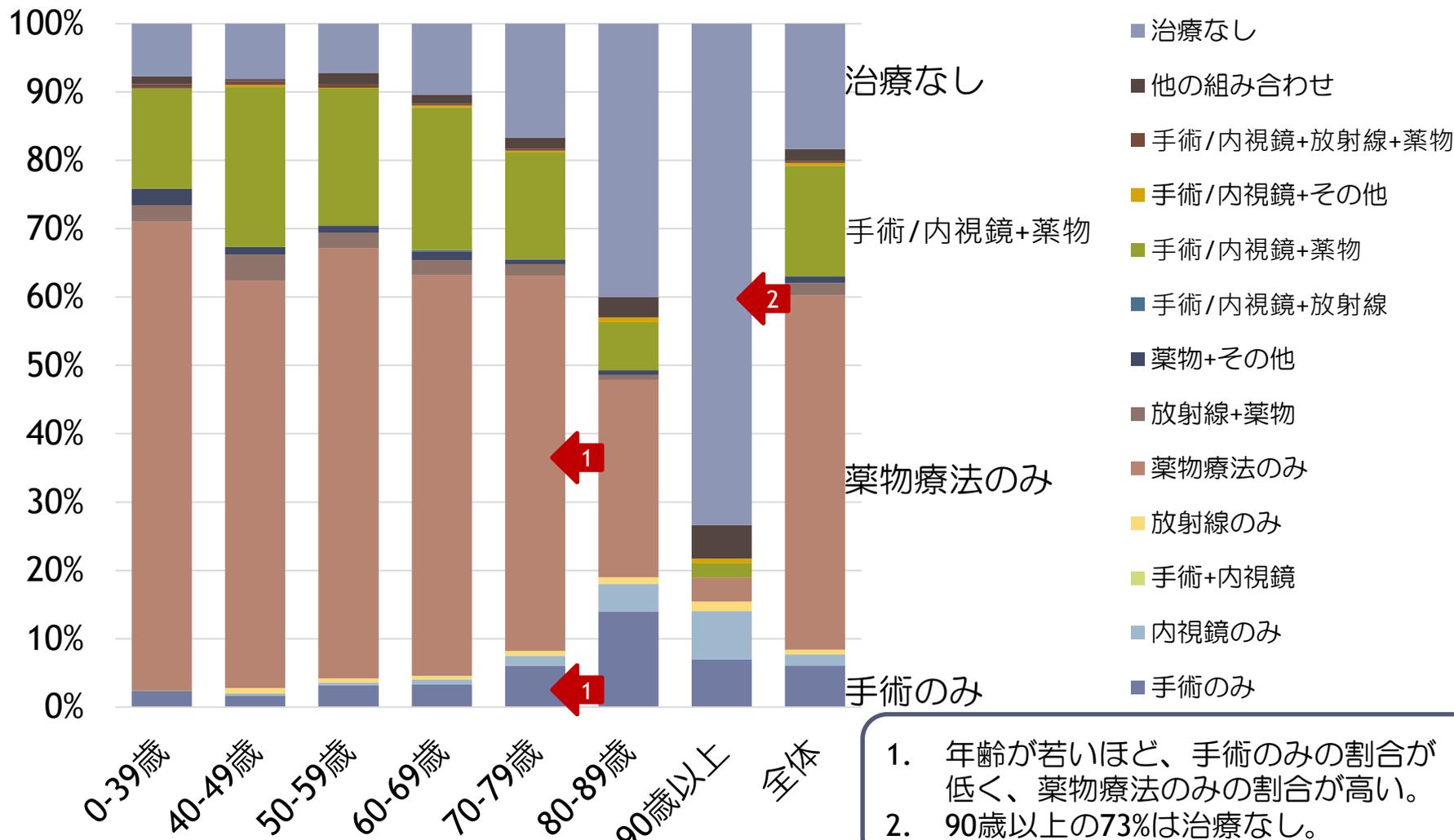
胃癌 Ⅲ期

胃癌 UICC TNM分類治療前病期Ⅲ期



胃癌 IV期

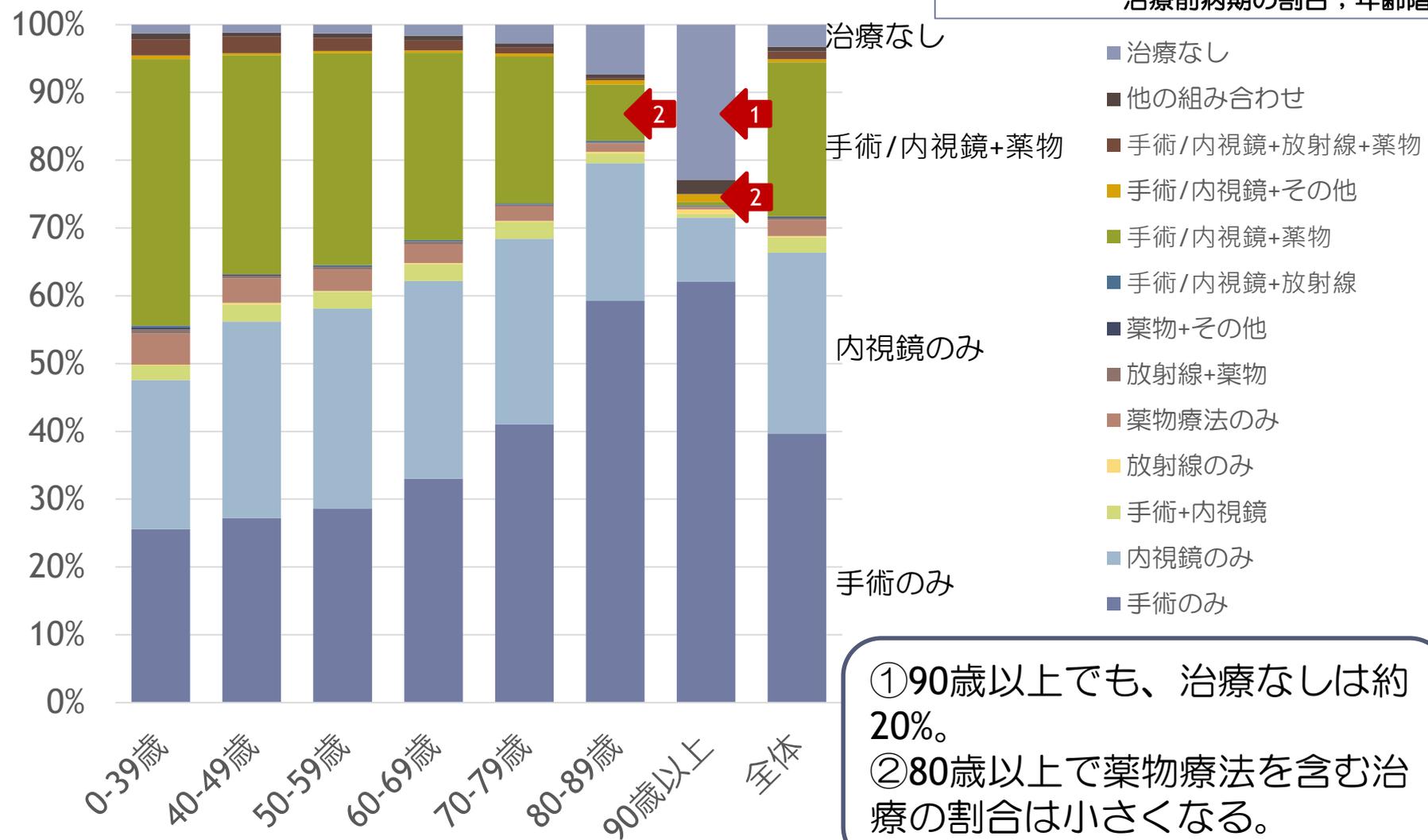
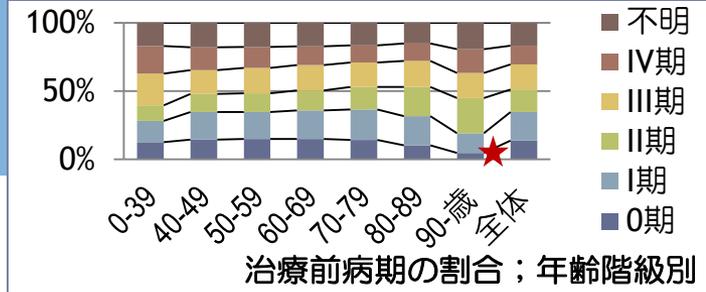
胃癌 UICC TNM分類治療前病期IV期



2012年報告書 抜粋 特別集計

5部位の年齢別にみた治療方法

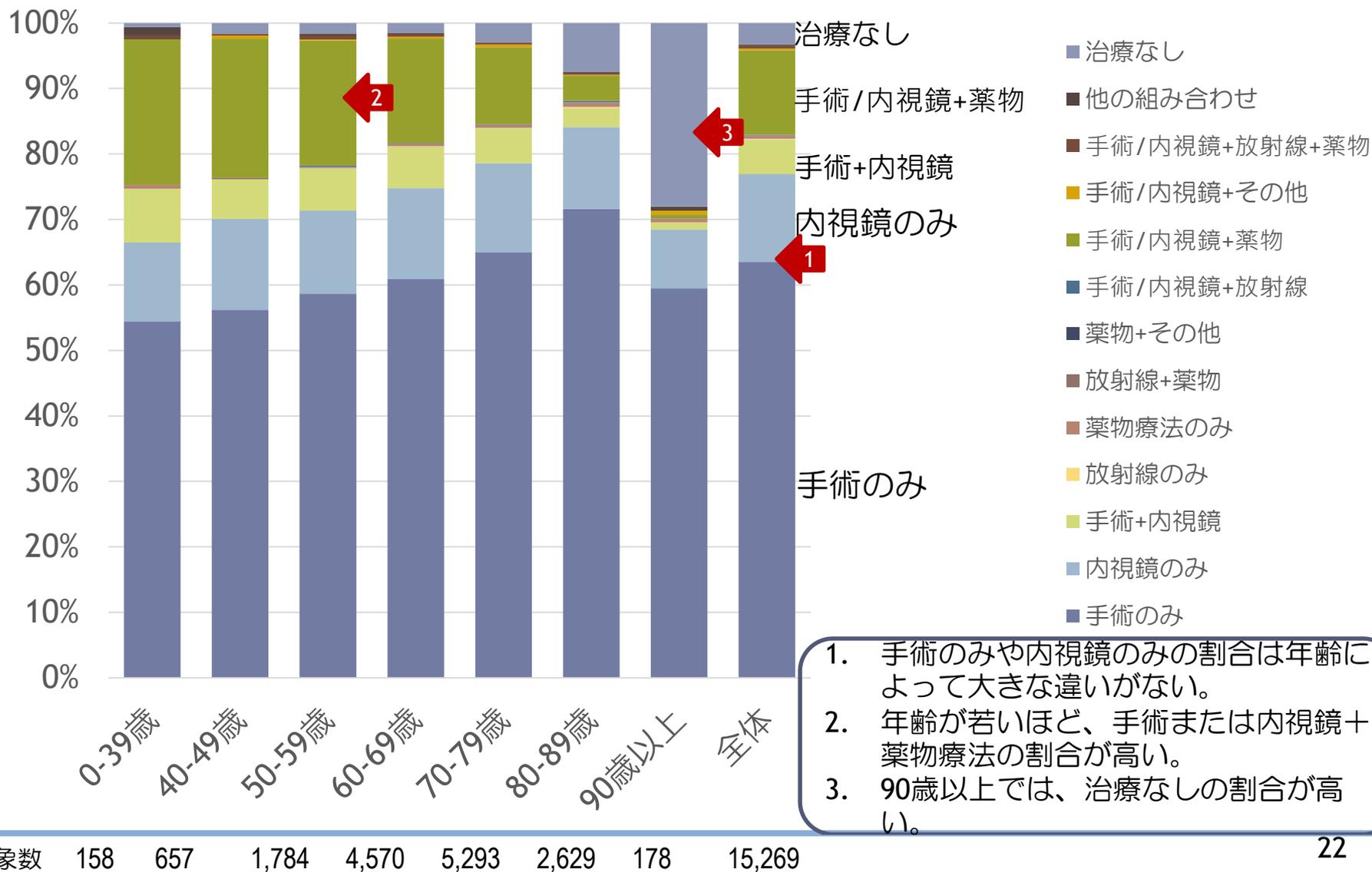
大腸癌 (p60-1)



対象数 1,009 3,261 9,042 21,719 23,727 12,274 1,236 72,268

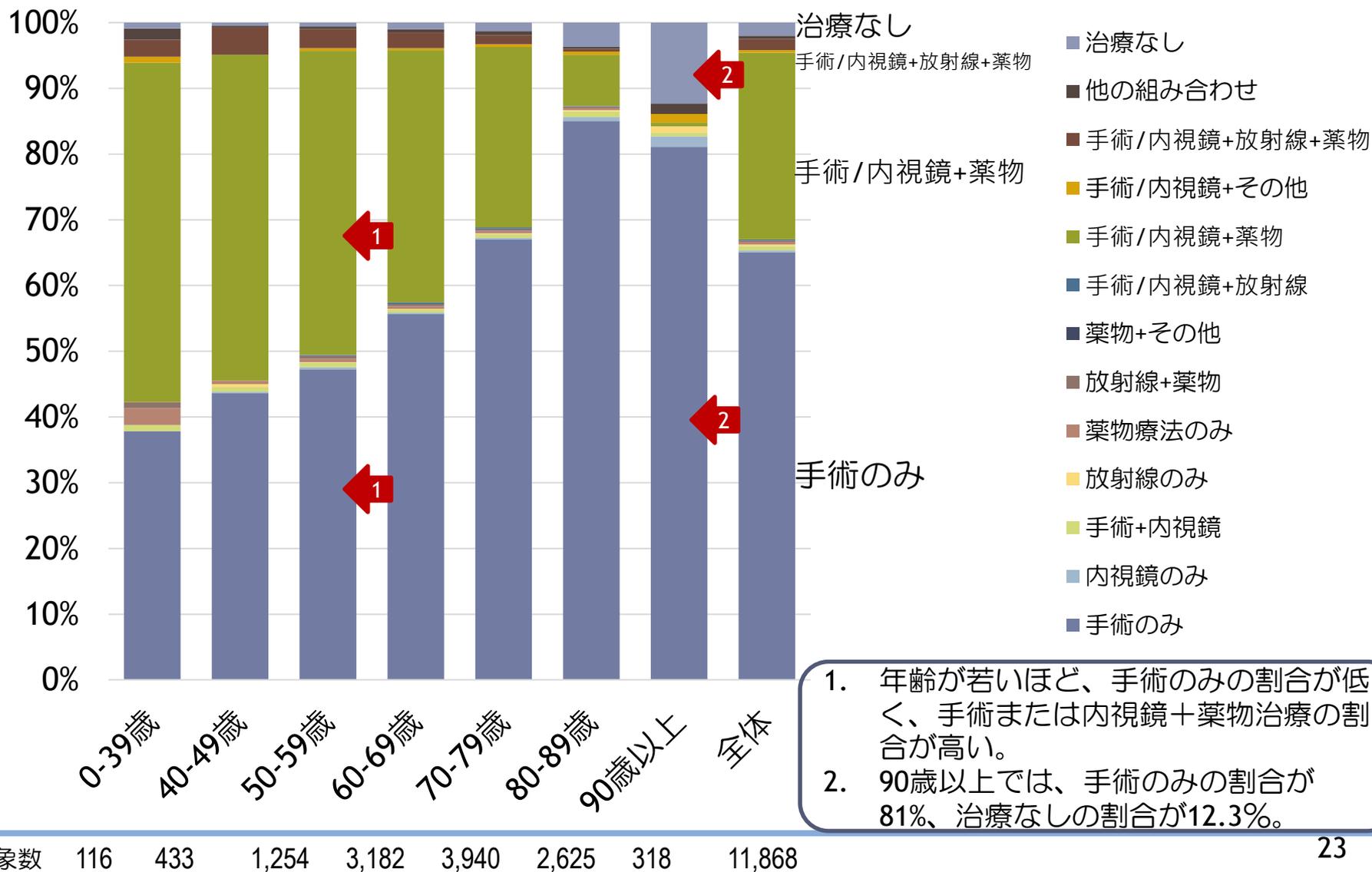
大腸癌 1期

大腸癌UICC TNM分類治療前病期1期



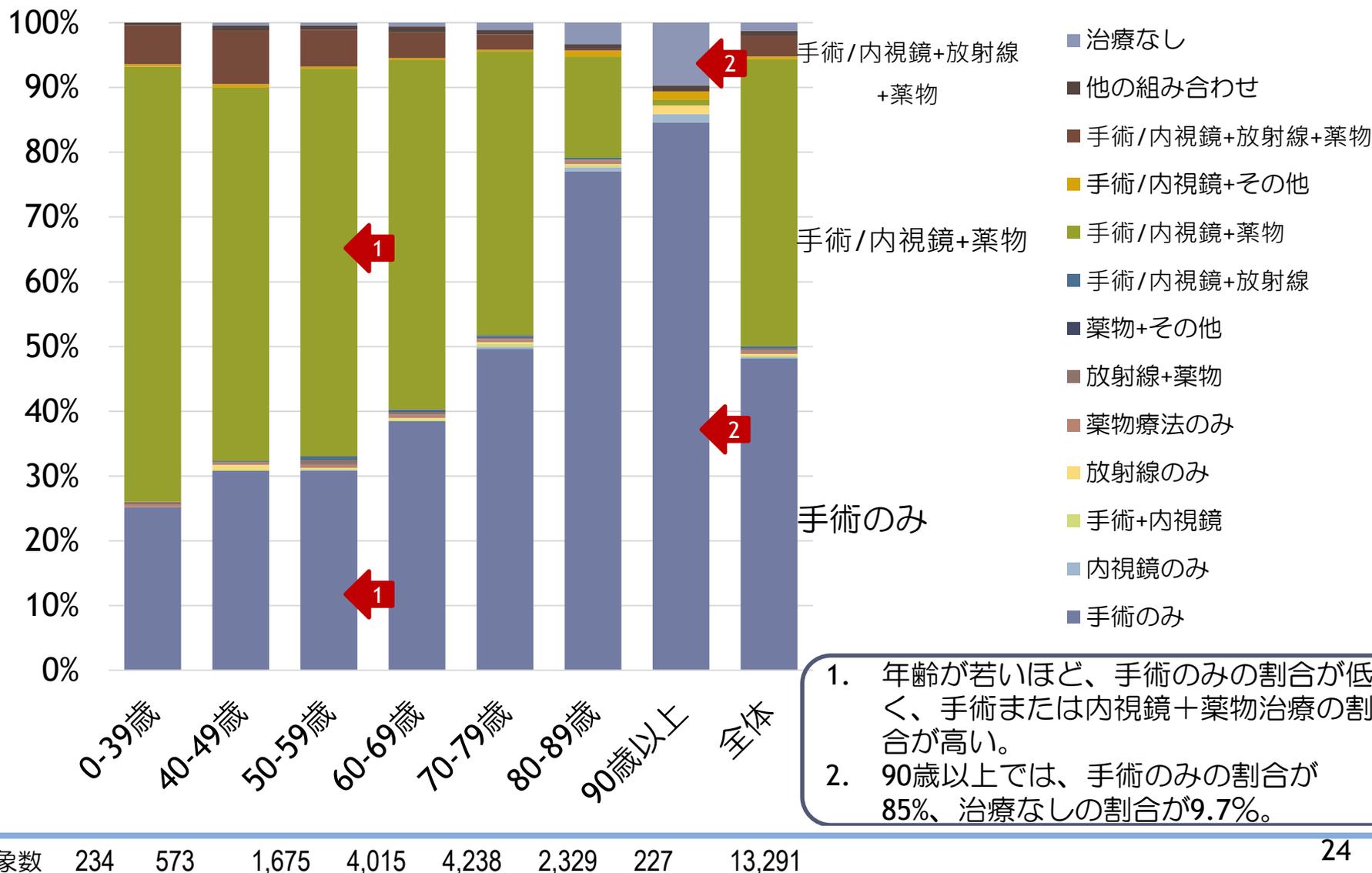
大腸癌 Ⅱ期

大腸癌UICC TNM分類治療前病期Ⅱ期



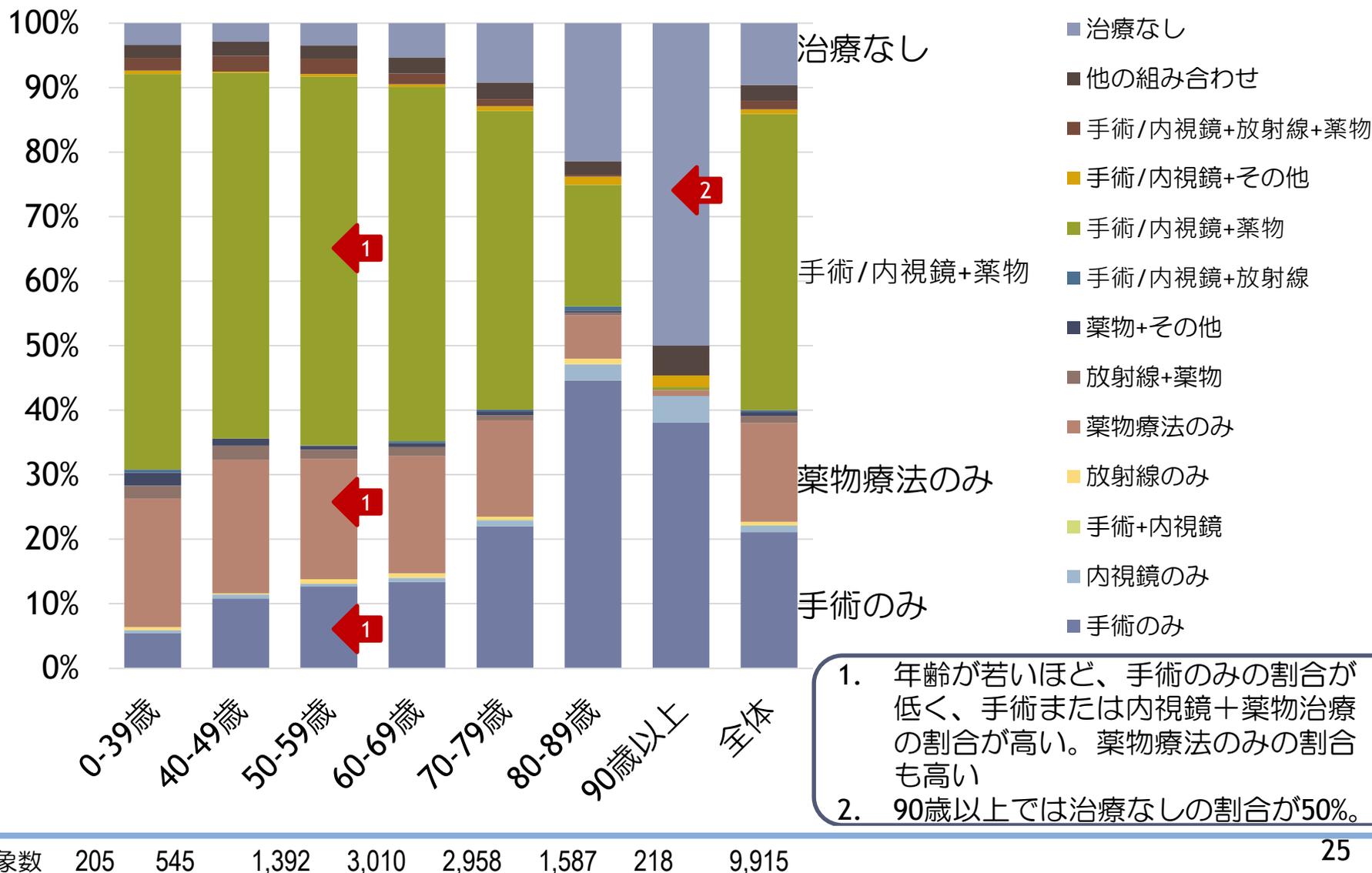
大腸癌 Ⅲ期

大腸癌UICC TNM分類治療前病期Ⅲ期



大腸癌 IV期

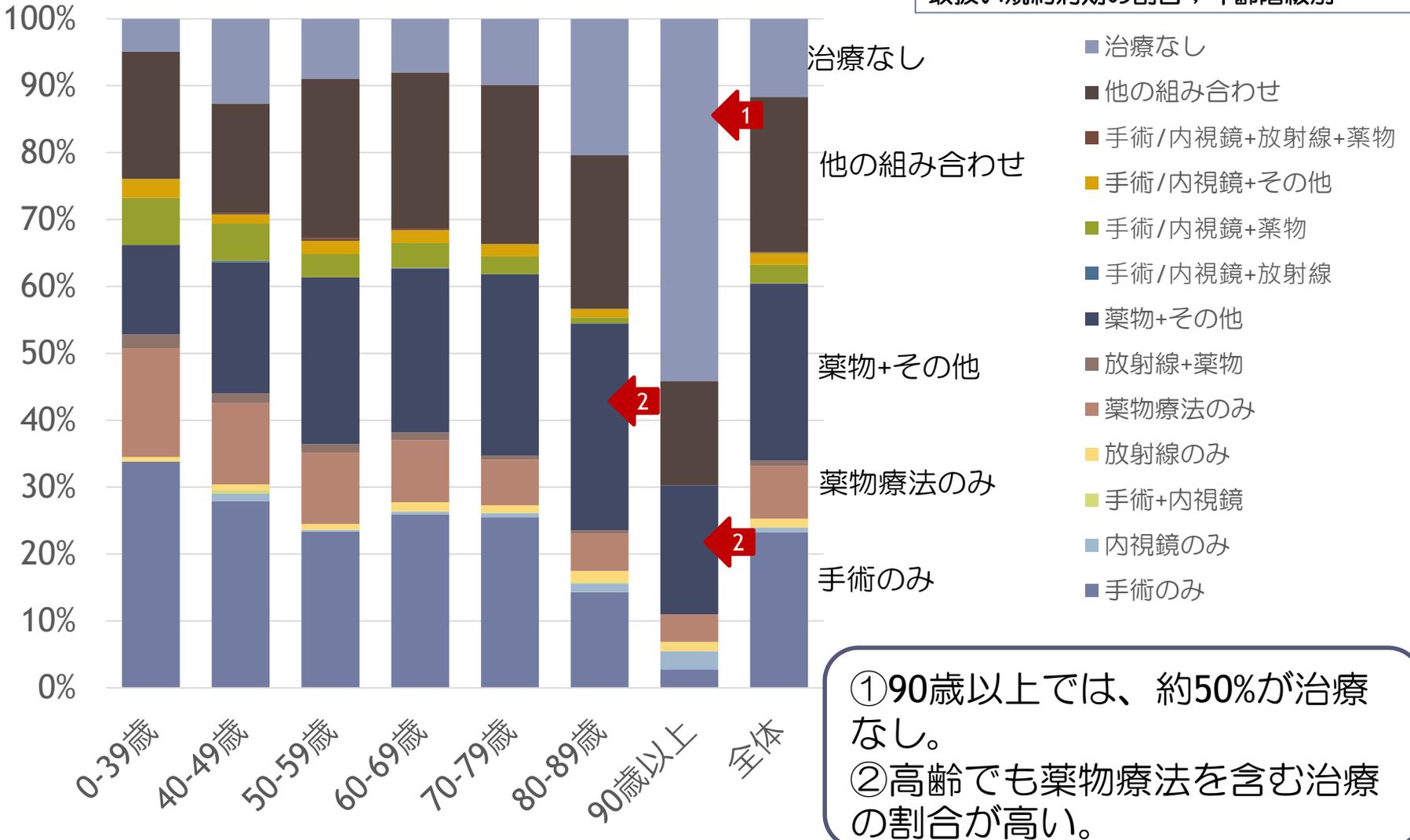
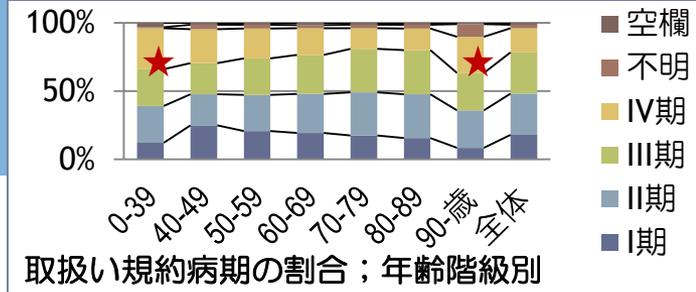
大腸癌UICC TNM分類治療前病期IV期



2012年報告書 抜粋 特別集計

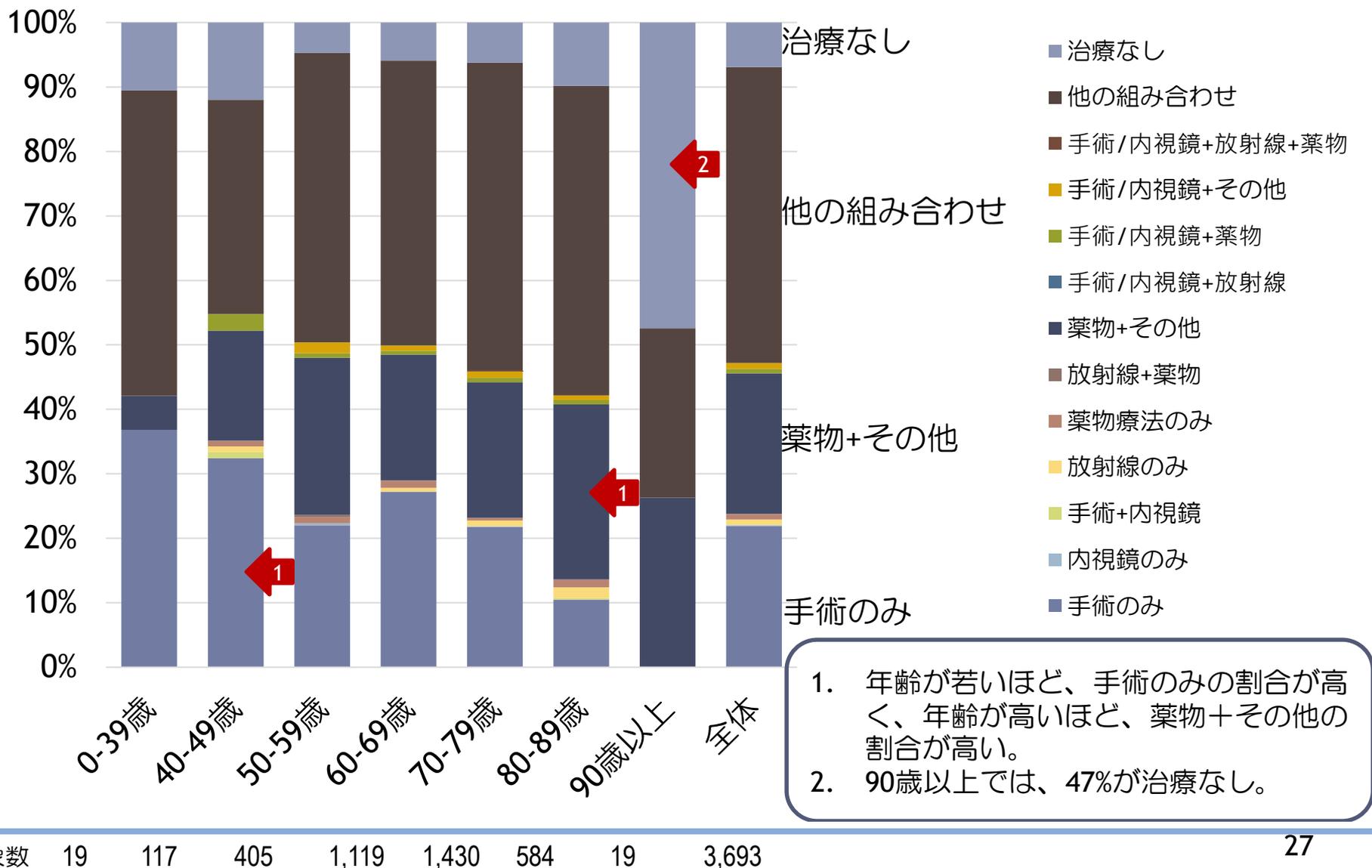
5部位の年齢別にみた治療方法

肝臓 (p62-3)

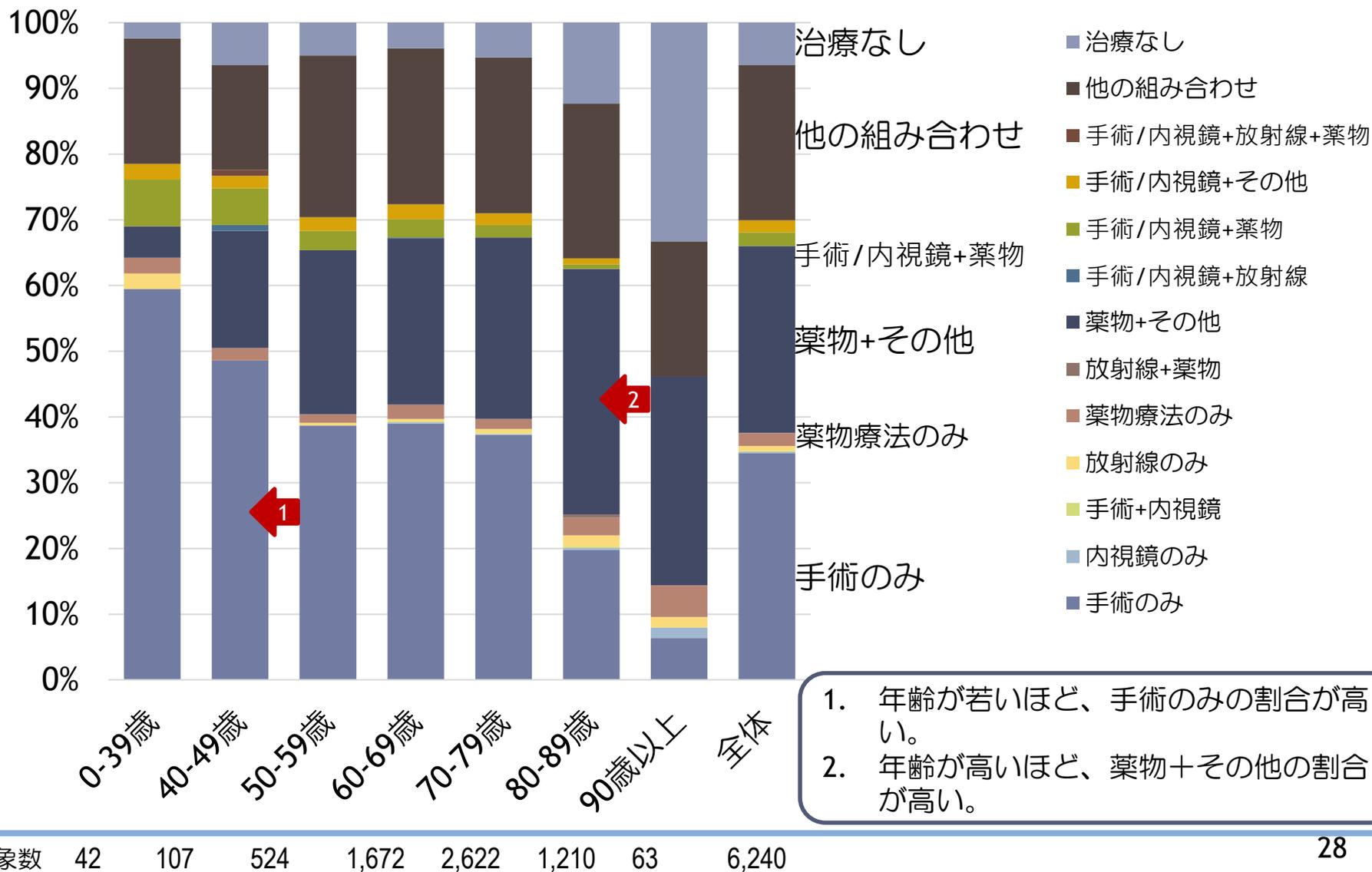


①90歳以上では、約50%が治療なし。
②高齢でも薬物療法を含む治療の割合が高い。

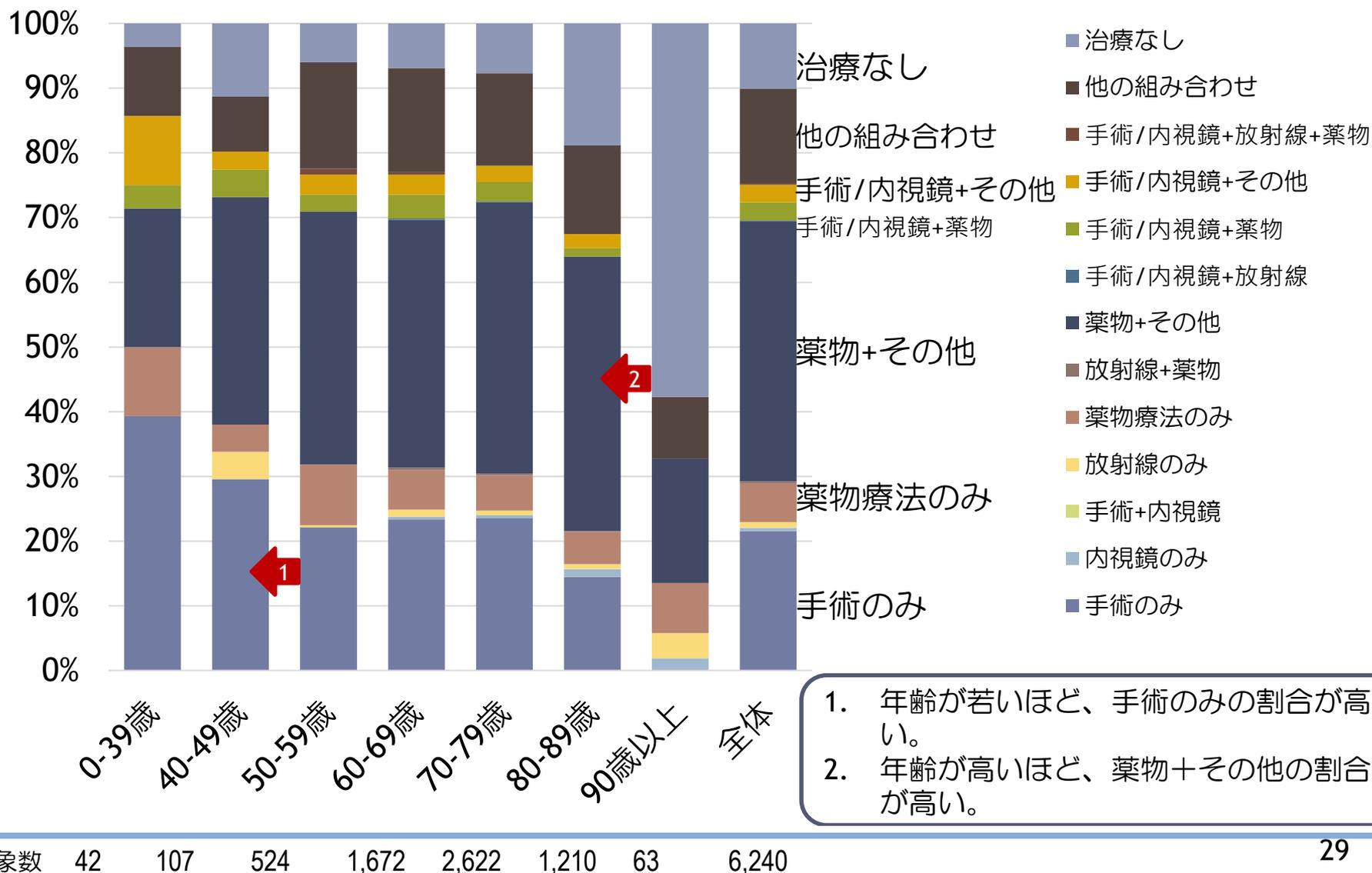
肝癌 Ⅰ期



肝臓 Ⅱ期

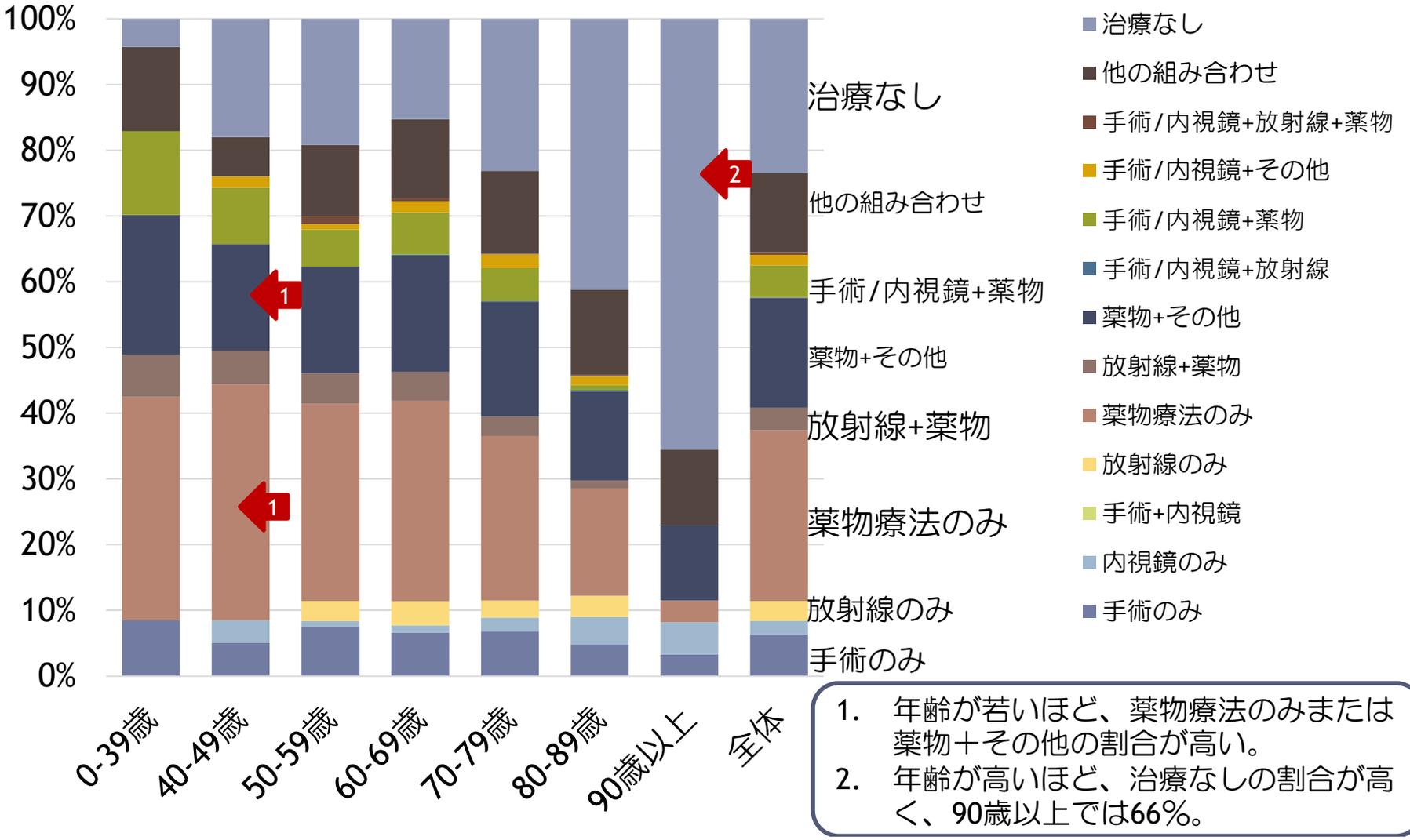


肝臓 Ⅲ期



肝臓 Ⅳ期

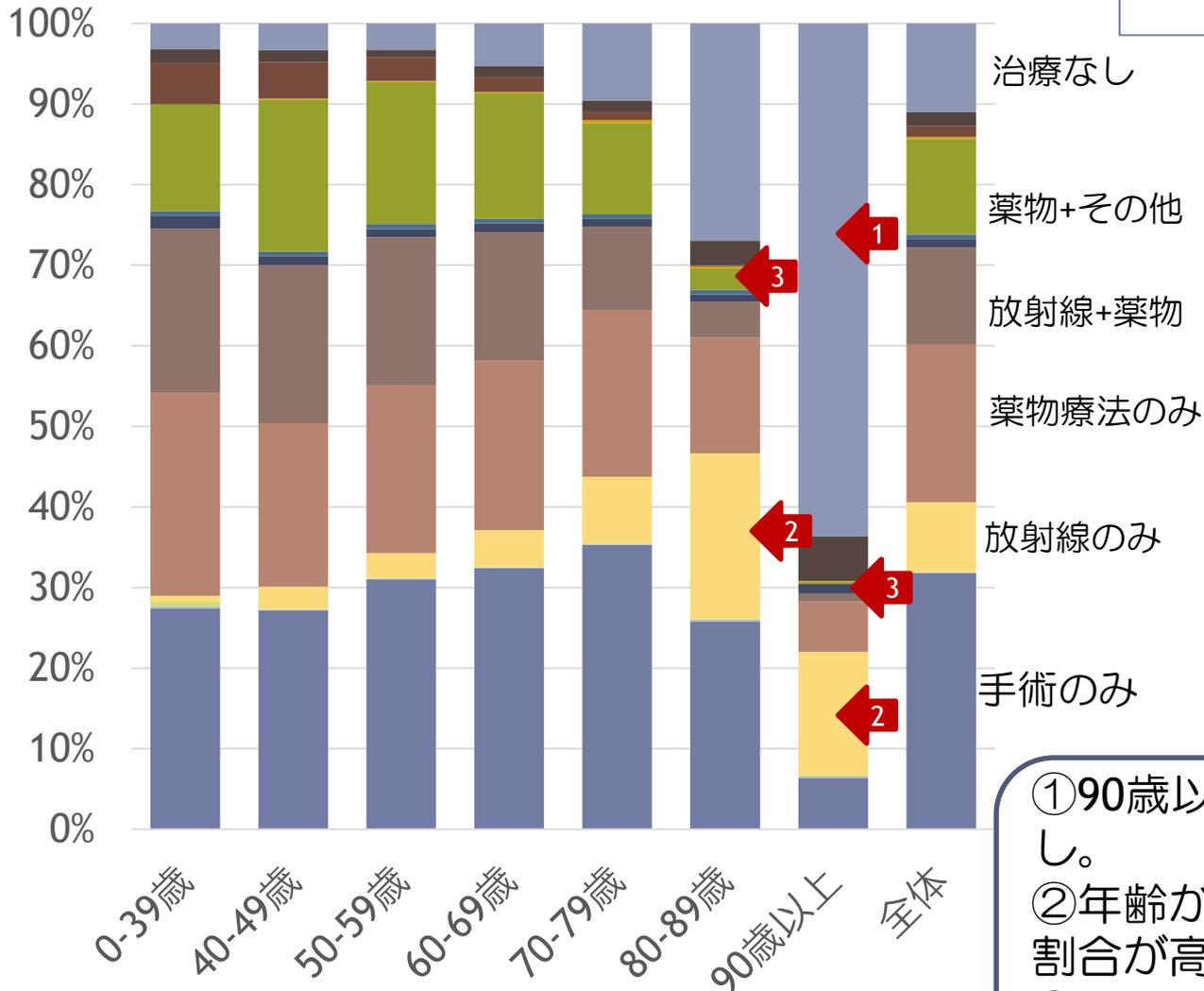
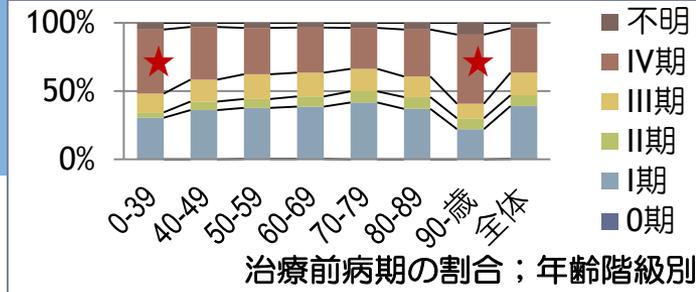
5部位の年齢別にみた治療方法 肝臓取扱い規約分類病期Ⅳ期



2012年報告書 抜粋 特別集計

5部位の年齢別にみた治療方法

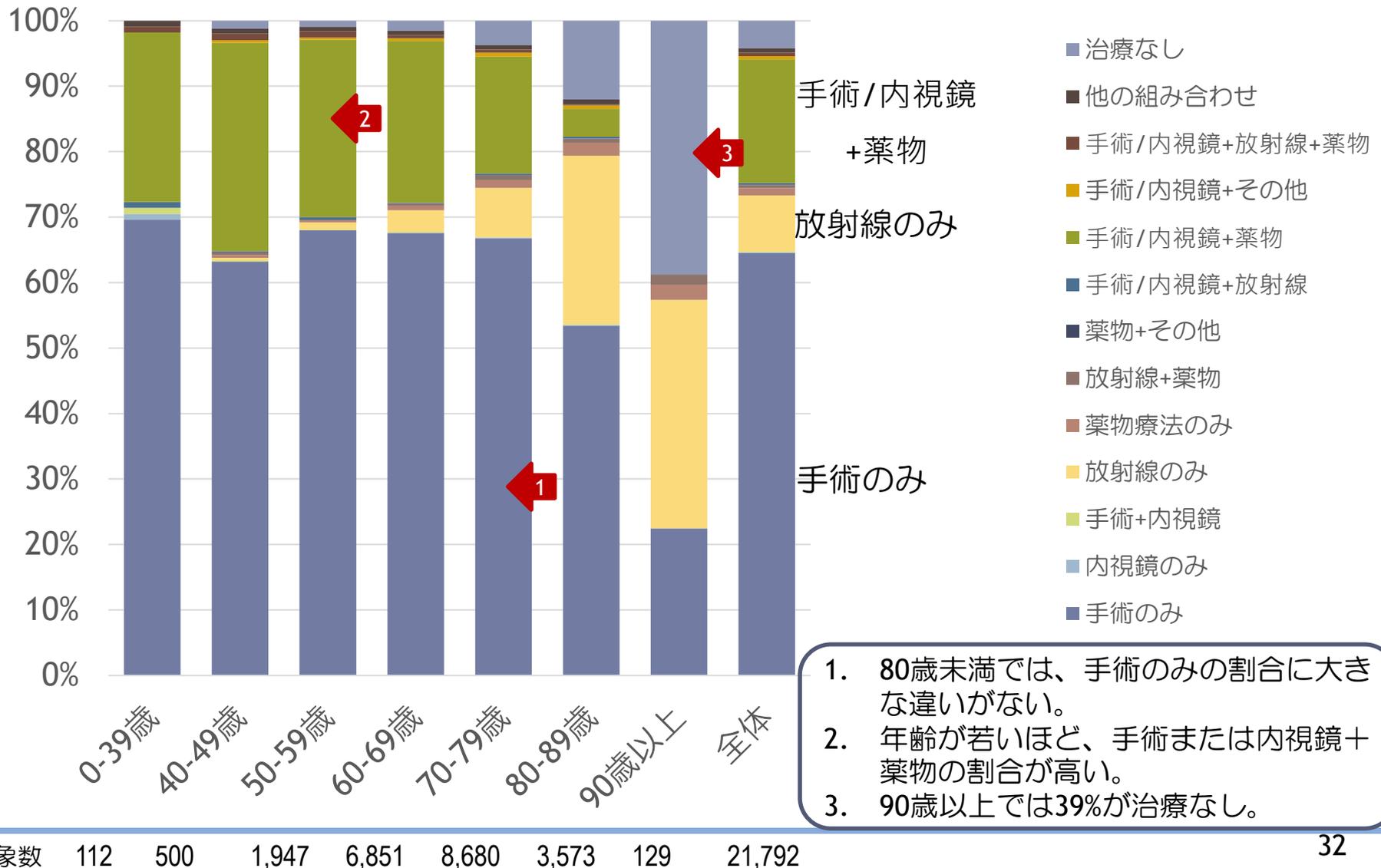
肺癌 (p64-5)



①90歳以上では、約60%が治療なし。
 ②年齢が高いほど、放射線だけの割合が高い。
 ③年齢が高いほど、薬物療法を含む治療の割合は小さい。

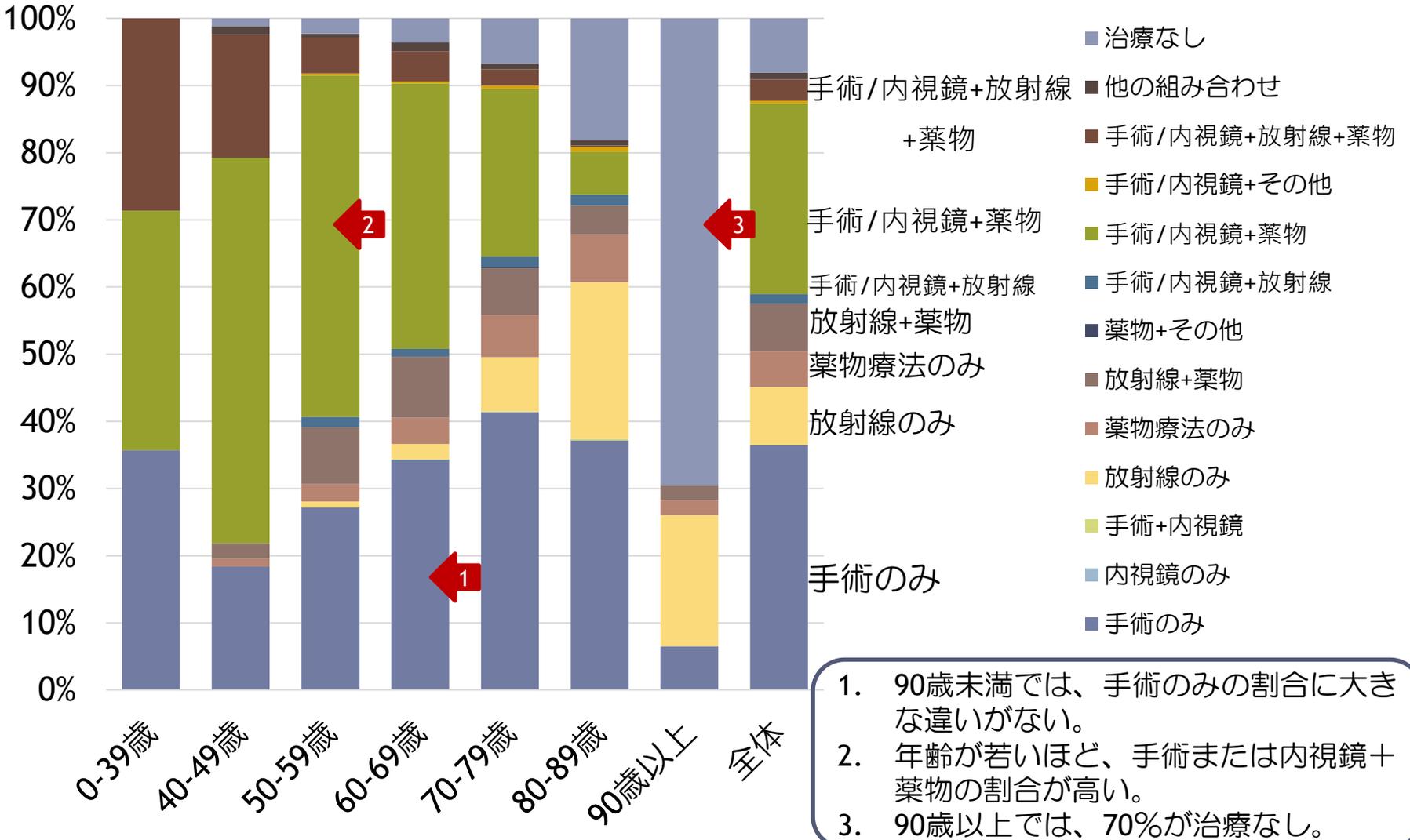
対象数 369 1,392 5,195 17,846 20,912 9,698 581 55,993

肺癌 1期



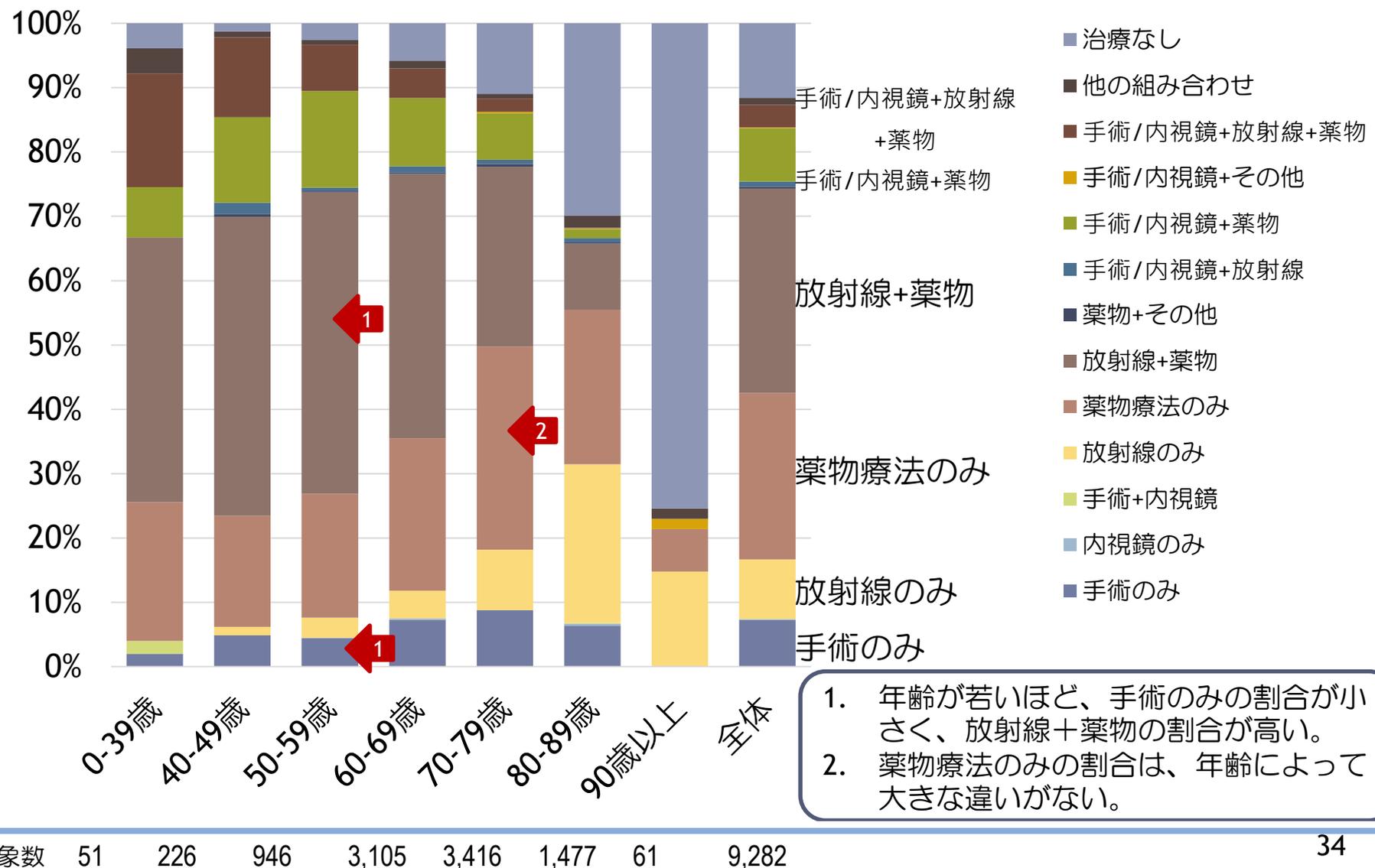
肺癌 Ⅱ期

5部位の年齢別にみた治療方法 肺癌UICC TNM分類治療前病期Ⅱ期



- 90歳未満では、手術のみの割合に大きな違いがない。
- 年齢が若いほど、手術または内視鏡+薬物の割合が高い。
- 90歳以上では、70%が治療なし。

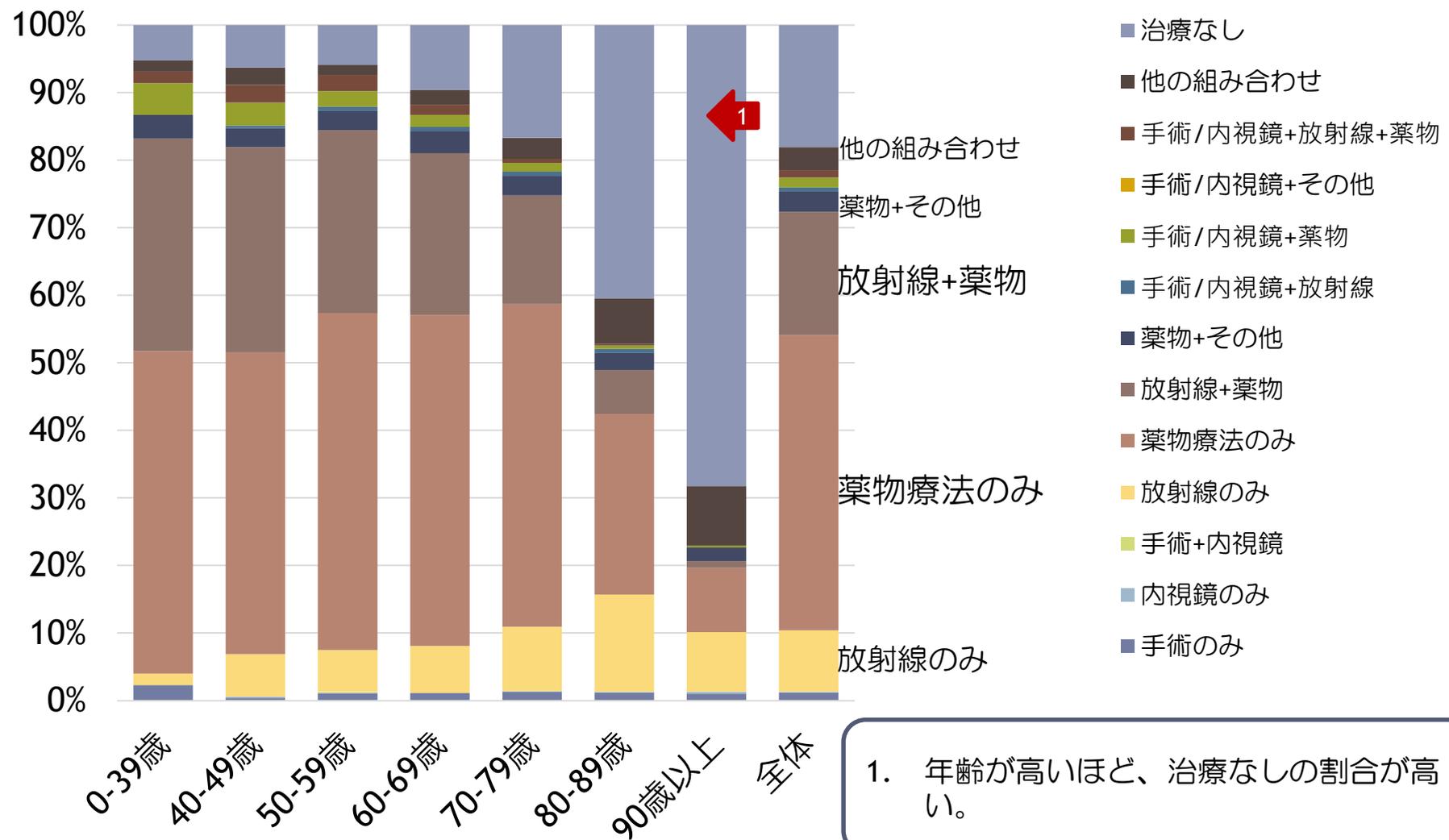
肺癌 Ⅲ期



肺癌

Ⅳ期

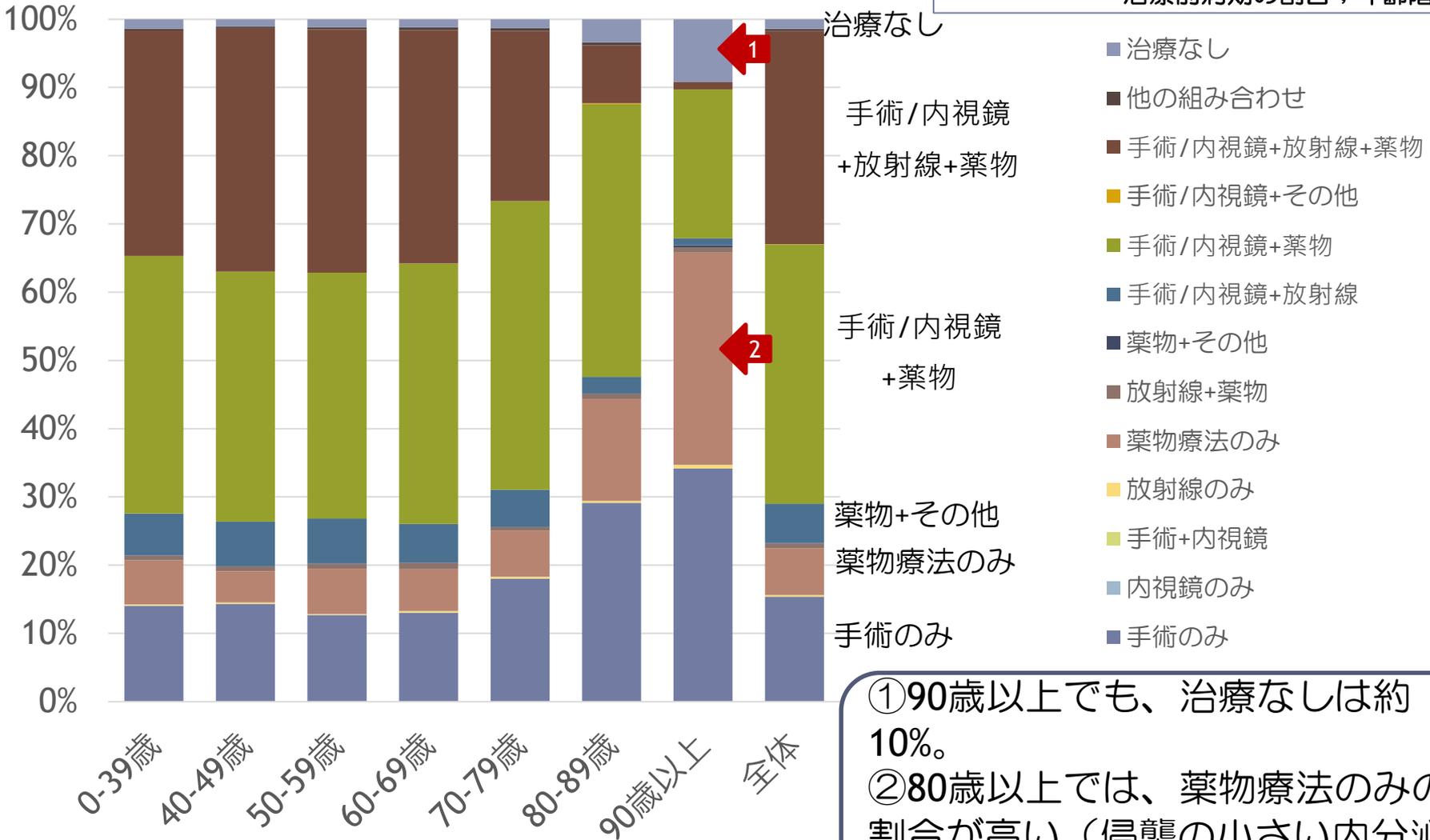
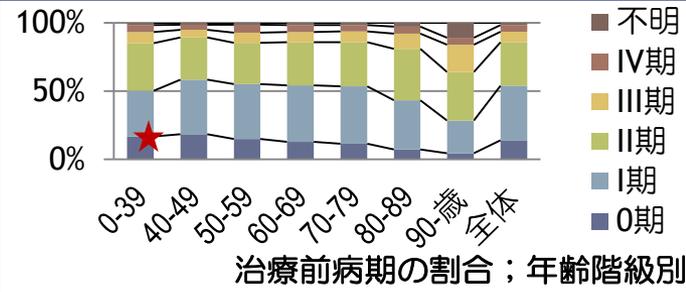
5部位の年齢別にみた治療方法 肺癌UICC TNM分類治療前病期Ⅳ期



2012年報告書 抜粋 特別集計

5部位の年齢別にみた治療方法

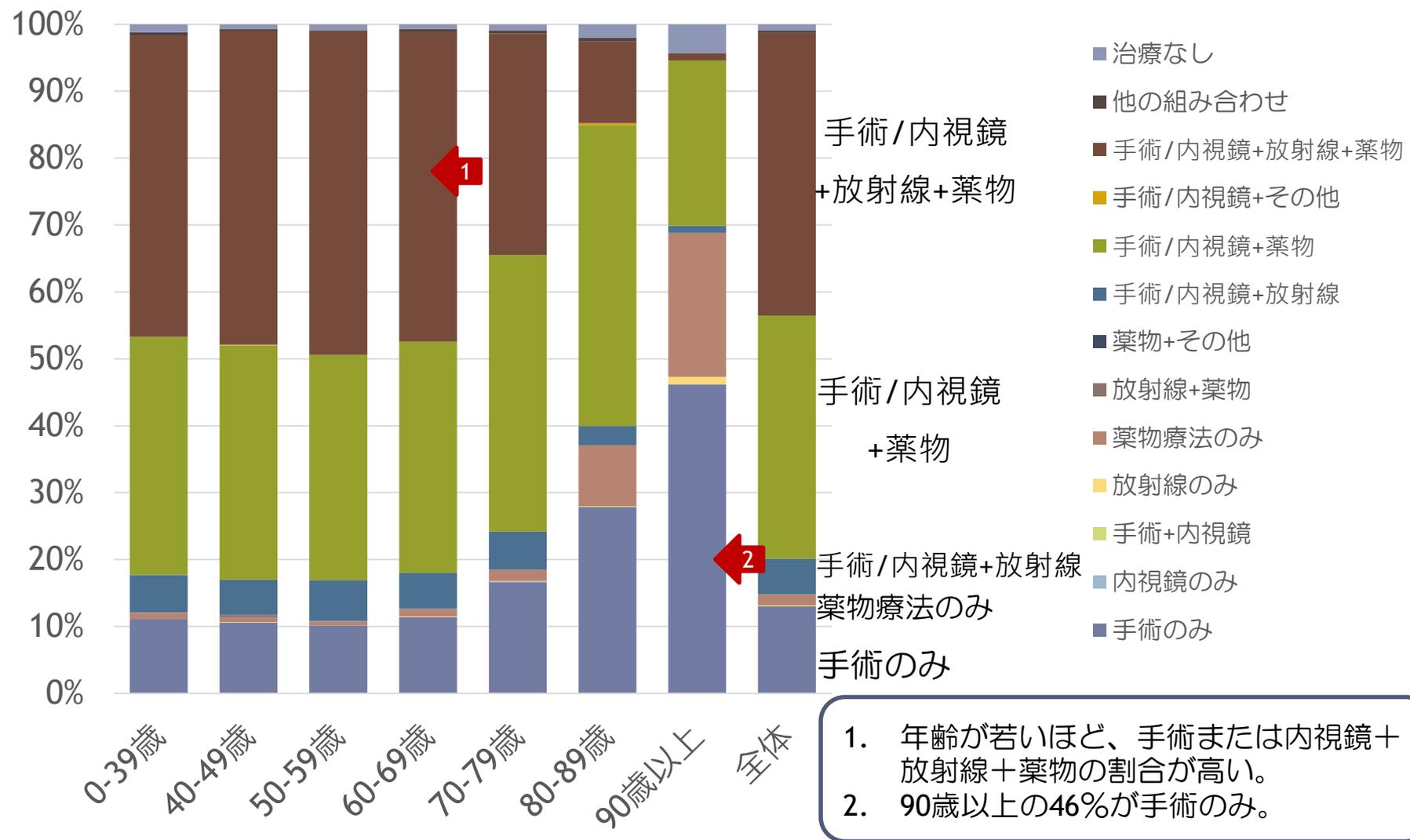
乳癌 (p66-7)



①90歳以上でも、治療なしは約10%。
 ②80歳以上では、薬物療法のための割合が高い（侵襲の小さい内分泌治療のため）。

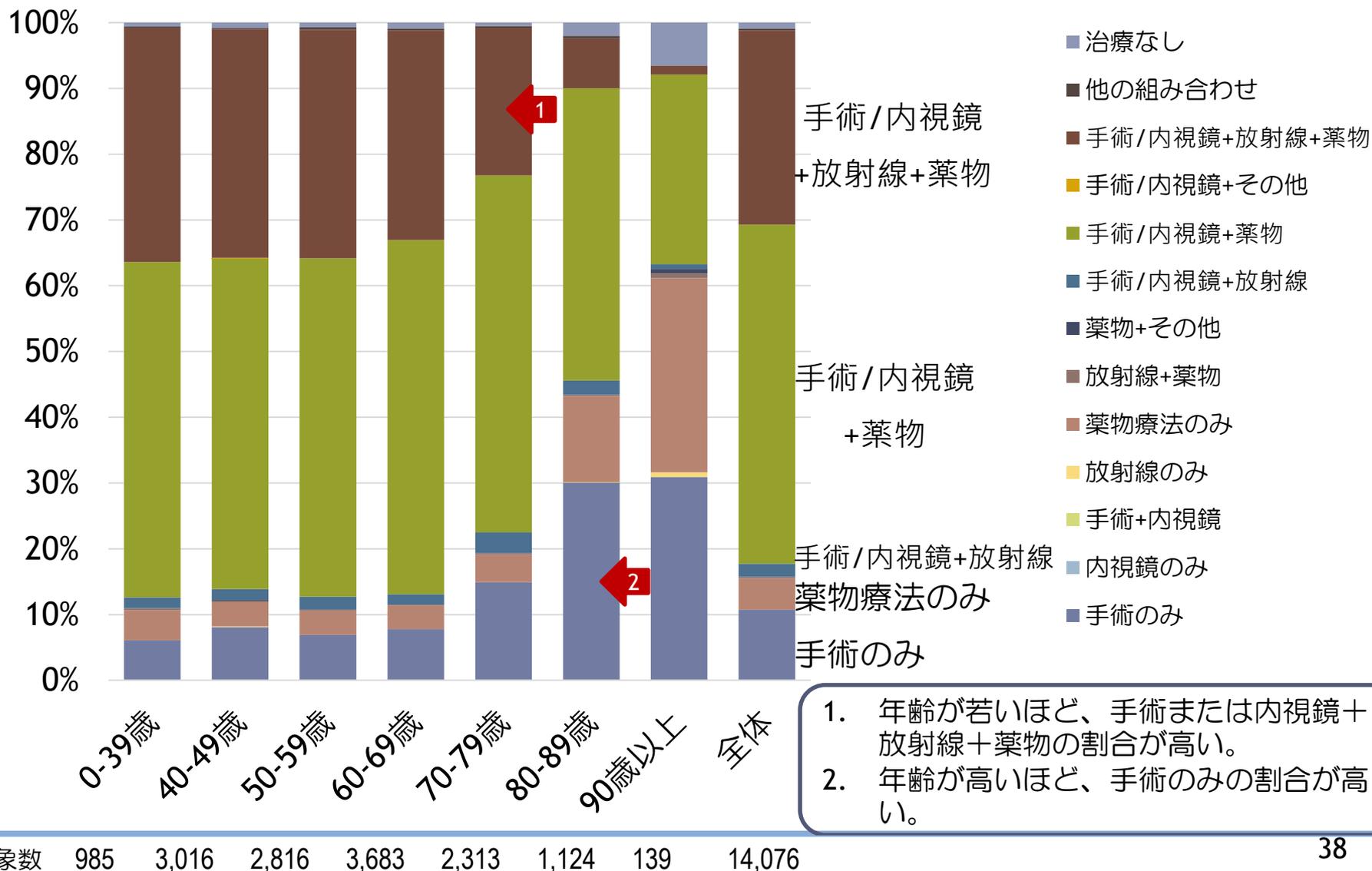
対象数	2,817	9,776	9,299	11,633	7,182	2,976	389	44,072
-----	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-----	--------

乳癌 1期



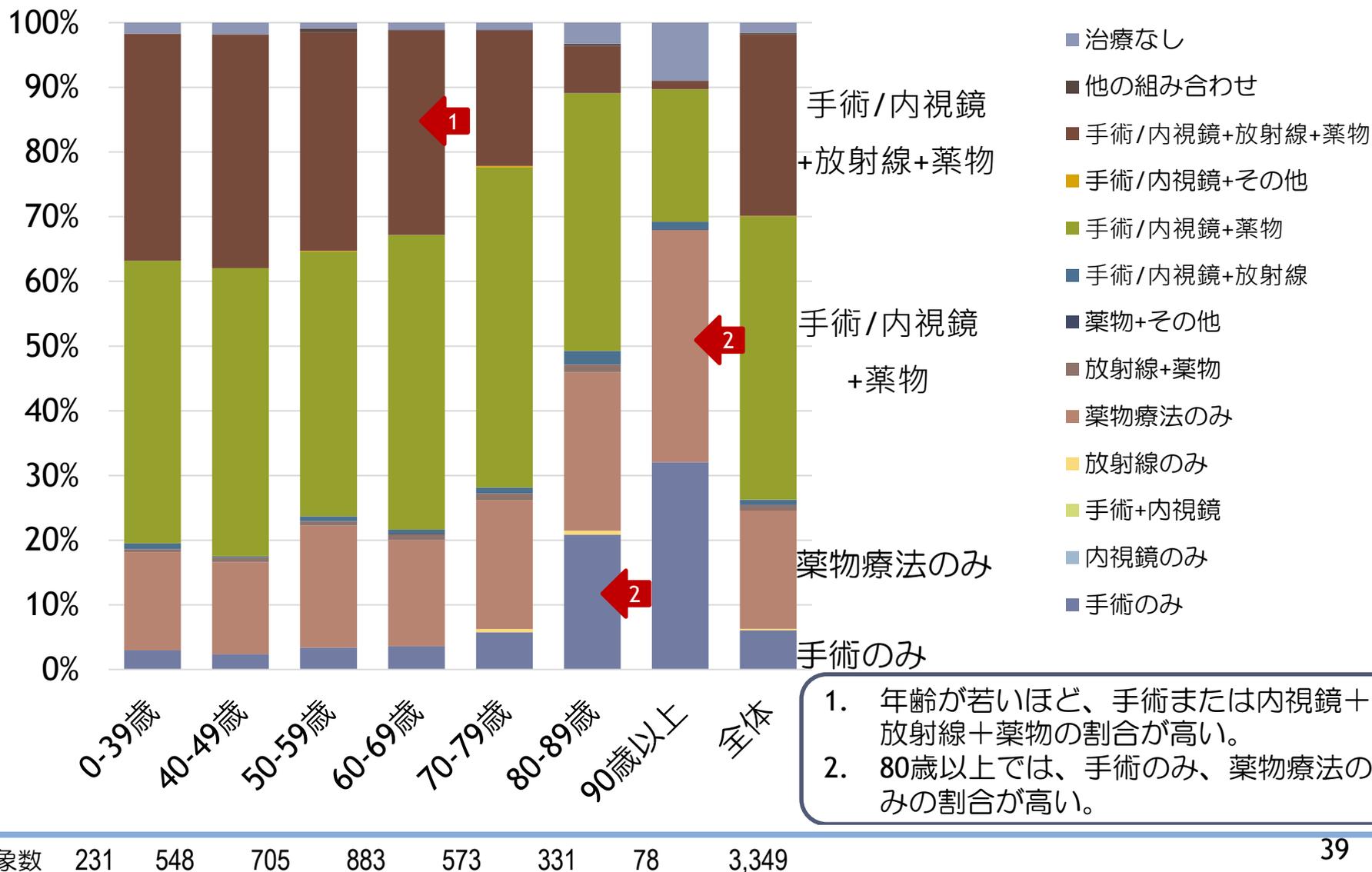
対象数	0-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90歳以上	全体
944	3,928	3,729	4,812	3,043	1,075	93	17,624	

乳癌 Ⅱ期



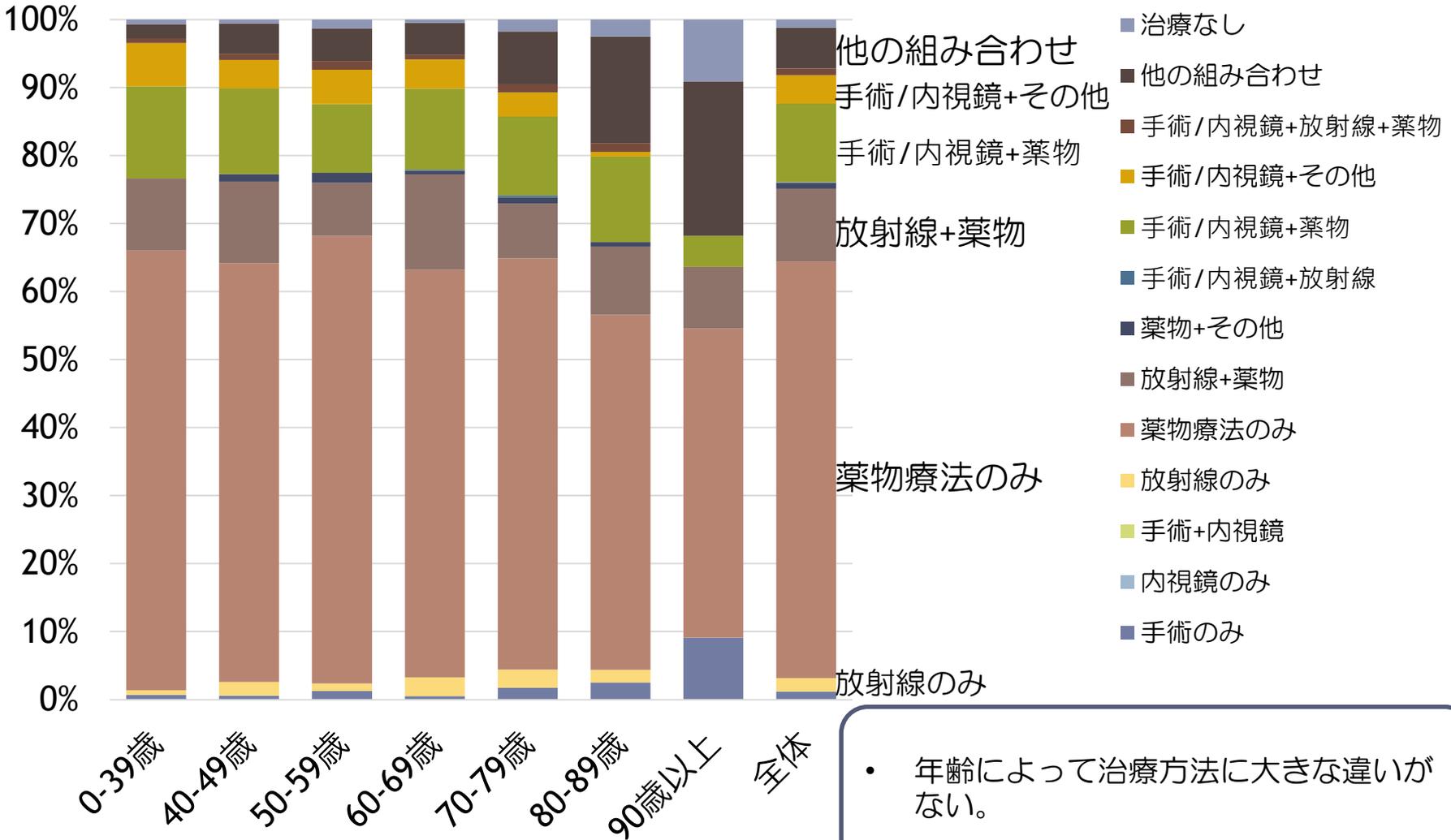
乳癌 Ⅲ期

5部位の年齢別みた治療方法 乳癌UICC TNM分類治療前病期Ⅲ期



乳癌 IV期

5部位の年齢別みた治療方法 乳癌UICC TNM分類治療前病期IV期

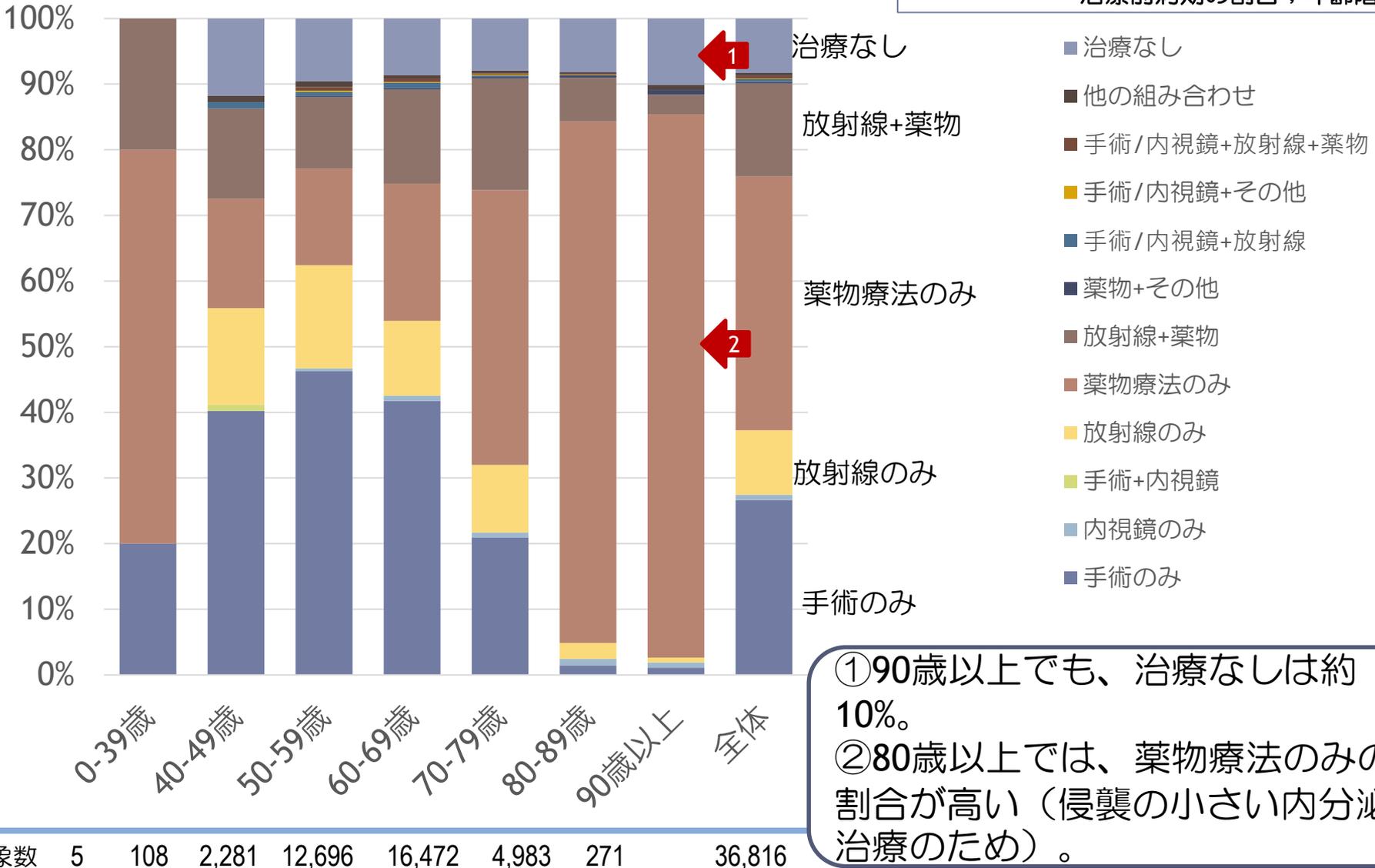
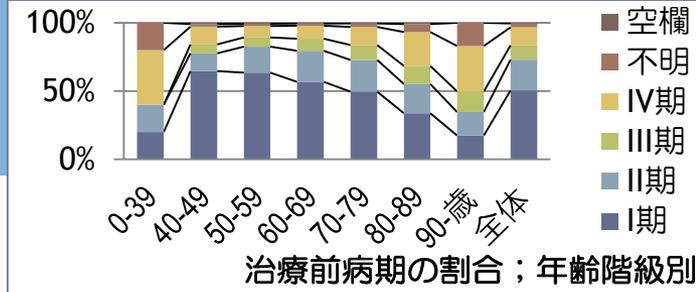


• 年齢によって治療方法に大きな違いがない。

2012年報告書 抜粋 特別集計

5部位の年齢別にみた治療方法

前立腺 (参考)



① 90歳以上でも、治療なしは約10%。
 ② 80歳以上では、薬物療法のみ（侵襲の小さい内分泌治療のため）。